言語聴覚学科

授業科目

言語聴覚学科（Speech-Language-Hearing therapy）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）

①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことのできる人材を育成する。
②言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を育てる。
③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる人材を育成する。
④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力し合える人材を育成する。

	講義	実習
2学年	到達目標：①対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ②自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。 ③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる。	
	専門基礎分野： ［心理学］心理測定法 ［社会福祉教育］社会保障制度・関係法規 ［専門基礎分野特論］Ⅰ基礎医学／Ⅱ臨床医学／Ⅲ音声言語聴覚医学／Ⅳ心理学／Ⅴ言語学／Ⅵ音声学／Ⅶ音響学／Ⅷ社会福祉・教育 ***専門分野***： ［失語・高次脳機能障害学］Ⅳ訓練／Ⅴケーススタディー ［言語発達障害学］Ⅷケーススタディー ［発声発語・嚥下障害学］Ⅳ成人系発語障害／Ⅵ摂食嚥下障害／Ⅶ音声障害／Ⅷ流暢性障害／Ⅸケーススタディー ［聴覚障害学］Ⅳ小児聴覚障害／Ⅴ補聴器・人工内耳／Ⅵ視覚聴覚二重障害 ［専門分野特論］Ⅰ言語聴覚障害学総論／Ⅱ失語症学／Ⅲ高次脳機能障害学／Ⅳ言語発達障害学／Ⅴ発声発語障害学／Ⅵ摂食嚥下障害学／Ⅶ聴覚障害学	**臨床実習Ⅱ【12週間】** 実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学びます。
1学年	到達目標：①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を身につける。 ②自己の問題点を客観的に認識できる。 ③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害について理解する。	
	専門基礎分野： ［基礎医学］医学総論／生理学／病理学／解剖学 ［臨床医学］耳鼻咽喉科学／内科学／小児科学／形成外科学／臨床神経学／精神医学／リハビリテーション医学／臨床歯科医学・口腔外科学 ［音声・言語・聴覚医学］呼吸発声発語系／聴覚系／神経系 ［心理学］認知・学習心理学／生涯発達心理学／臨床心理学／心理統計法 ［音声・言語学］言語発達学／言語学／音声学／音響学／聴覚心理学 ［社会福祉教育］リハビリテーション概論（PT・OT概論含む） ***専門分野***： ［言語聴覚障害総論］言語聴覚障害学概論／言語聴覚診断学／コミュニケーション技能演習／コミュニケーション障害演習／言語聴覚障害学演習 ［失語・高次脳機能障害学］Ⅰ概論／Ⅱ失語・高次脳機能障害／Ⅲ評価 ［言語発達障害学］Ⅰ概論／Ⅱ自閉症スペクトラム障害／Ⅲ知的発達障害／Ⅳ限局性学習障害／Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下／Ⅵ検査・評価／Ⅶケーススタディー ［発声発語・嚥下障害学］Ⅰ概論／Ⅱ小児系発語障害／Ⅲ成人系発語障害／Ⅴ摂食嚥下障害 ［聴覚障害学］Ⅰ概論／Ⅱ成人聴覚障害／Ⅲ小児聴覚障害	**【コミュニケーション技能演習実習／5日間】** 医療・福祉施設での介護や、リハビリテーション場面の見学などを行い、対象者との接し方を学びます。 **【コミュニケーション障害演習実習／5日間】** 言語聴覚士の業務の実際を学びます。 **【臨床実習Ⅰ／15日間】** 対象者の全体像ならびに生活機能と障害のとらえ方を学びます。（対象者に対して言語聴覚療法評価を行い、生活機能と障害を整理し治療目標を立案）

言語聴覚学科カリキュラム　2020年度入学生

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	1学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名	2学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名
専門基礎分野	基礎医学	3	8	120	講義		医学総論	1	15	1	林宏拓	講義		医学総論				
					講義		生理学	2	30	1	米倉千晶	講義		生理学				
					講義		病理学	2	30	1	山本寛	講義		病理学				
					講義		解剖学	2	30	1	米倉千晶	講義		解剖学				
					講義		専門基礎分野Ⅰ【基礎医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅰ【基礎医学】	1	15	2	学科教員
	臨床医学	6	11	165	講義		耳鼻咽喉科学	1	15	1	大山玄	講義		耳鼻咽喉科学				
					講義		内科学	2	30	1	佐藤和夫	講義		内科学				
					講義		小児科学	2	30	1	鈴木文晴	講義・演習		小児科学				
					講義		形成外科学	1	15	1	時岡一幸	講義		形成外科学				
					講義		臨床神経学	2	30	1	佐藤和夫	講義		臨床神経学				
					講義		精神医学	1	15	1	田口弘之・中村晃一	講義		精神医学				
					講義		リハビリテーション医学	1	15	1	植村修・木村欣司	講義		リハビリテーション医学				
					講義		専門基礎分野Ⅱ【臨床医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅱ【臨床医学】	1	15	2	学科教員
	臨床歯科医学	1	1	15	講義		臨床歯科医学・口腔外科学	1	15	1	早川大地	講義		臨床歯科医学・口腔外科学				
	音声・言語・聴覚医学	3	7	105	講義	音声言語聴覚医学	呼吸発声発語系	2	30	1	鈴木真生	講義	音声言語聴覚医学	呼吸発声発語系				
					講義		聴覚系	2	30	1	[illegible]	講義		聴覚系				
					講義		神経系	2	30	1	天野カオリ	講義		神経系				
					講義		専門基礎分野Ⅲ【音声言語聴覚医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅲ【音声言語聴覚医学】	1	15	2	学科教員
	心理学	7	12	180	講義		認知・学習心理学	2	30	1	藤枝幹大	講義		認知・学習心理学				
					講義		生涯発達心理学	2	30	1	藤枝幹大	講義		生涯発達心理学				
					講義		臨床心理学	3	45	1	藤枝幹大	講義		臨床心理学				
					講義		心理測定法					講義		心理測定法	2	30	2	福島和郎
					講義		心理統計法	2	30	1	小野口航	講義		心理統計法				
					講義		専門基礎分野Ⅳ【心理学】					講義		専門基礎分野特論Ⅳ【心理学】	1	15	2	学科教員
	言語発達学	1	2	30	講義		言語発達学	2	30	1	霍間郁実	講義		言語発達学				
	言語学	2	4	60	講義		言語学	3	45	1	勝山裕之	講義		言語学				
					講義		専門基礎分野Ⅴ【言語学】					講義		専門基礎分野特論Ⅴ【言語学】	1	15	2	学科教員
	音声学	2	4	60	講義		音声学	3	45	1	田中邦佳	講義		音声学				
					講義		専門基礎分野Ⅵ【音声学】					講義		専門基礎分野特論Ⅵ【音声学】	1	15	2	学科教員
	音響学	2	4	60	講義		音響学	2	30	1	田中邦佳	講義		音響学				
					講義		聴覚心理学	1	15	1	田嶋圭一	講義		聴覚心理学				
					講義		専門基礎分野Ⅶ【音響学】					講義		専門基礎分野特論Ⅶ【音響学】	1	15	2	学科教員
	社会福祉・教育	2	4	75	講義		社会保障制度・関係法規					講義		社会保障制度・関係法規	2	30	2	山下望
					講義・実技		リハビリテーション概論（介護福祉論含む）	1	30	1	[illegible]	講義・実技		リハビリテーション概論（介護福祉論含む）				
					講義		専門基礎分野Ⅷ【社会福祉・教育】					講義		専門基礎分野特論Ⅷ【社会福祉・教育】	1	15	2	学科教員
	合計	29	57	870				45	690						12	180		

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	1学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名	2学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名
専門分野	言語聴覚障害学総論	4	10	225	講義		言語聴覚障害概論	2	30	1	木村欣司	講義		言語聴覚障害概論				
					講義		言語聴覚診断学	2	30	1	木村欣司・山﨑暁	講義		言語聴覚診断学				
					講義・実習		コミュニケーション技能演習	2	60	1	学科教員・実習指導者	講義・実習		コミュニケーション技能演習				
					講義・実習		コミュニケーション障害演習	2	60	1	学科教員・実習指導者	講義・実習		コミュニケーション障害演習				
					演習		言語聴覚障害学演習	1	30	1	学科教員	演習		言語聴覚障害学演習				
					講義		専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】					講義		専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】	1	15	2	学科教員
	失語・高次脳機能障害学	6	12	195	講義	失語・高次脳機能障害学	Ⅰ概論	1	15	1	西片裕・山﨑暁	講義	失語・高次脳機能障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ失語・高次脳機能障害	2	30	1	西片裕・山﨑暁	講義		Ⅱ失語・高次脳機能障害				
					講義		Ⅲ評価	4	60	1	西片裕・山﨑暁	講義		Ⅲ評価				
					講義		Ⅳ訓練					講義		Ⅳ訓練	2	30	2	西片裕・山﨑暁
					演習		Ⅴケーススタディー					演習		Ⅴケーススタディー	1	30	2	西片裕・山﨑暁
					講義		専門分野特論Ⅱ【失語症学】					講義		専門分野特論Ⅱ【失語症学】	1	15	2	学科教員
					講義		専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】					演習		専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】	1	15	2	学科教員
	言語発達障害学	6	8	150	講義	言語発達障害学	Ⅰ概論	1	15	1	鈴木圭子	講義	言語発達障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ自閉症スペクトラム障害	1	15	1	重森知奈	講義		Ⅱ自閉症スペクトラム障害				
					講義		Ⅲ知的発達障害	1	15	1	水戸陽子	講義		Ⅲ知的発達障害				
					講義		Ⅳ限局性学習障害	1	15	1	中塚誠	講義		Ⅳ限局性学習障害				
					講義		Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下	1	15	1	板口しおり・[illegible]	講義		Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下				
					講義・演習		Ⅵ検査・評価	1	30	1	馬目雪枝	講義・演習		Ⅵ検査・評価				
					演習		Ⅶケーススタディー					演習		Ⅶケーススタディー	1	30	2	馬目雪枝
					講義		専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】					講義		専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】	1	15	2	学科教員
	発声発語・嚥下障害学	9	14	255	講義	発声発語・嚥下障害学	Ⅰ概論	1	15	1	鈴木圭子・学科教員	講義	発声発語・嚥下障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ小児系発話障害	2	30	1	鈴木圭子	講義		Ⅱ小児系発話障害				
					講義		Ⅲ成人系発話障害	2	30	1	鈴木真生	講義		Ⅲ成人系発話障害				
					演習		Ⅳ成人系発話障害					演習		Ⅳ成人系発話障害	1	30	2	鈴木真生
					講義		Ⅴ摂食嚥下障害	2	30	1	木村欣司	講義		Ⅴ摂食嚥下障害				
					演習		Ⅵ摂食嚥下障害					演習		Ⅵ摂食嚥下障害	1	30	2	加藤太一・木村欣司
					講義		Ⅶ音声障害					講義		Ⅶ音声障害	1	15	2	西片裕
					講義		Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）					講義		Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）	1	15	2	南めぐみ
					演習		Ⅸケーススタディー					演習		Ⅸケーススタディー	1	30	2	赤松栄晃・鈴木真生
					講義		専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】					講義		専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】	1	15	2	学科教員
					講義		専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】					講義		専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】	1	15	2	学科教員
	聴覚障害学	7	8	120	講義	聴覚障害学	Ⅰ概論	1	15	1	岡野由実	講義	聴覚障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ成人聴覚障害	2	30	1	坂本圭	講義		Ⅱ成人聴覚障害				
					講義		Ⅲ小児聴覚障害	1	15	1	伊集院亮子	講義		Ⅲ小児聴覚障害				
					講義		Ⅳ小児聴覚障害					講義		Ⅳ小児聴覚障害	1	15	2	岡野由実
					講義		Ⅴ補聴器・人工内耳					講義		Ⅴ補聴器・人工内耳	1	15	2	関口貴之
					講義		Ⅵ視覚聴覚二重障害					講義		Ⅵ視覚聴覚二重障害	1	15	2	森澤亮介
					講義		専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】					講義		専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】	1	15	2	学科教員
	臨床実習	12	15	600	実習		臨床実習Ⅰ	3	120	1	実習指導者	実習		臨床実習Ⅰ				
					実習		臨床実習Ⅱ					実習		臨床実習Ⅱ	12	480	2	実習指導者
	合計	44	67	1545				36	705						31	840		

注）講義1単位15時間、演習1単位30時間、実習及び実技1単位30時間、臨床実習1単位40時間とする。
注）講義は前・後期制。1コマの授業は100分とする。
注）「コミュニケーション技能演習」、「コミュニケーション障害演習」のうち実習は、病院または診療所、老人保健施設、老人福祉施設等で行うものとする。
注）臨床実習のうち、「実習Ⅰ（評価実習）」は病院または診療所、老人保健施設等の実習地で行うものとする。
注）臨床実習のうち、「実習Ⅱ（臨床実習）」は「病院または診療所にて320時間」「老人保健施設・難聴児通園施設・ことばの教室等にて160時間」を行うものとし、計480時間の実習を行う。

言語聴覚学科カリキュラム　2021年度入学生

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	1学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名	2学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名
専門基礎分野	基礎医学	3	8	120	講義		医学総論	1	15	1	林宏拓/学科教員	講義		医学総論				
					講義		生理学	2	30	1	米倉千晶	講義		生理学				
					講義		病理学	2	30	1	山本寛	講義		病理学				
					講義		解剖学	2	30	1	米倉千晶	講義		解剖学				
					講義		専門基礎分野Ⅰ【基礎医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅰ【基礎医学】	1	15	2	
	臨床医学	6	11	165	講義		耳鼻咽喉科学	1	15	1		講義		耳鼻咽喉科学				
					講義		内科学	2	30	1	佐藤和夫	講義		内科学				
					講義		小児科学	2	30	1	鈴木文晴	講義・演習		小児科学				
					講義		形成外科学	1	15	1	時岡一幸	講義		形成外科学				
					講義		臨床神経学	2	30	1	佐藤和夫	講義		臨床神経学				
					講義		精神医学	1	15	1	田口弘之・中村晃一	講義		精神医学				
					講義		リハビリテーション医学	1	15	1	佐藤和夫・[illegible]・学科教員	講義		リハビリテーション医学				
					講義		専門基礎分野Ⅱ【臨床医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅱ【臨床医学】	1	15	2	
	臨床歯科医学	1	1	15	講義		臨床歯科医学・口腔外科学	1	15	1		講義		臨床歯科医学・口腔外科学				
	音声・言語・聴覚医学	3	7	105	講義	音声言語聴覚医学	呼吸発声発語系	2	30	1	鈴木真生	講義	音声言語聴覚医学	呼吸発声発語系				
					講義		聴覚系	2	30	1		講義		聴覚系				
					講義		神経系	2	30	1	天野カオリ	講義		神経系				
					講義		専門基礎分野Ⅲ【音声言語聴覚医学】					講義		専門基礎分野特論Ⅲ【音声言語聴覚医学】	1	15	2	
	心理学	7	12	180	講義		認知・学習心理学	2	30	1	藤枝幹大	講義		認知・学習心理学				
					講義		生涯発達心理学	2	30	1	藤枝幹大	講義		生涯発達心理学				
					講義		臨床心理学	3	45	1	藤枝幹大	講義		臨床心理学				
					講義		心理測定法					講義		心理測定法	2	30	2	
					講義		心理統計法	2	30	1	小野口航	講義		心理統計法				
					講義		専門基礎分野Ⅳ【心理学】					講義		専門基礎分野特論Ⅳ【心理学】	1	15	2	
	言語発達学	1	2	30	講義		言語発達学	2	30	1	霍間郁実	講義		言語発達学				
	言語学	2	4	60	講義		言語学	3	45	1	勝山裕之	講義		言語学				
					講義		専門基礎分野Ⅴ【言語学】					講義		専門基礎分野特論Ⅴ【言語学】	1	15	2	
	音声学	2	4	60	講義		音声学	3	45	1	田中邦佳	講義		音声学				
					講義		専門基礎分野Ⅵ【音声学】					講義		専門基礎分野特論Ⅵ【音声学】	1	15	2	
	音響学	2	4	60	講義		音響学	2	30	1	田中邦佳	講義		音響学				
					講義		聴覚心理学	1	15	1	田嶋圭一	講義		聴覚心理学				
					講義		専門基礎分野Ⅶ【音響学】					講義		専門基礎分野特論Ⅶ【音響学】	1	15	2	
	社会福祉・教育	2	4	75	講義		社会保障制度・関係法規					講義		社会保障制度・関係法規	2	30	2	
					講義・実技		リハビリテーション概論（介護福祉論含む）	1	30	1	[illegible]	講義・実技		リハビリテーション概論（介護福祉論含む）				
					講義		専門基礎分野Ⅷ【社会福祉・教育】					講義		専門基礎分野特論Ⅷ【社会福祉・教育】	1	15	2	
	合　計	29	57	870				45	690						12	180		

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	1学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名	2学年 授業形式		学則に定める授業科目	単位数	時間数	履修年次	講師名
専門分野	言語聴覚障害学総論	4	10	225	講義		言語聴覚障害概論	2	30	1	木村欣司	講義		言語聴覚障害概論				
					講義		言語聴覚診断学	2	30	1	木村欣司・山﨑暁	講義		言語聴覚診断学				
					講義・実習		コミュニケーション技能演習	2	60	1	学科教員・実習指導者	講義・実習		コミュニケーション技能演習				
					講義・実習		コミュニケーション障害演習	2	60	1	学科教員・実習指導者	講義・実習		コミュニケーション障害演習				
					演習		言語聴覚障害学演習	1	30	1	学科教員	演習		言語聴覚障害学演習				
					講義		専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】					講義		専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】	1	15	2	
	失語・高次脳機能障害学	6	12	195	講義	失語・高次脳機能障害学	Ⅰ概論	1	15	1	西片裕・山﨑暁	講義	失語・高次脳機能障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ失語・高次脳機能障害	2	30	1	西片裕・山﨑暁	講義		Ⅱ失語・高次脳機能障害				
					講義		Ⅲ評価	4	60	1	西片裕・山﨑暁	講義		Ⅲ評価				
					講義		Ⅳ訓練					講義		Ⅳ訓練	2	30	2	
					演習		Ⅴケーススタディー					演習		Ⅴケーススタディー	1	30	2	
					講義		専門分野特論Ⅱ【失語症学】					講義		専門分野特論Ⅱ【失語症学】	1	15	2	
					講義		専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】					演習		専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】	1	15	2	
	言語発達障害学	6	8	150	講義	言語発達障害学	Ⅰ概論	1	15	1	鈴木圭子	講義	言語発達障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ自閉症スペクトラム障害	1	15	1	重森知奈	講義		Ⅱ自閉症スペクトラム障害				
					講義		Ⅲ知的発達障害	1	15	1	水戸陽子	講義		Ⅲ知的発達障害				
					講義		Ⅳ限局性学習障害	1	15	1	中塚誠	講義		Ⅳ限局性学習障害				
					講義		Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下	1	15	1	坂口しおり・谷本式慶	講義		Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下				
					講義・演習		Ⅵ検査・評価	1	30	1	馬目雪枝	講義・演習		Ⅵ検査・評価				
					演習		Ⅶケーススタディー					演習		Ⅶケーススタディー	1	30	2	
					講義		専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】					講義		専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】	1	15	2	
	発声発語・嚥下障害学	9	14	255	講義	発声発語・嚥下障害学	Ⅰ概論	1	15	1	中塚誠・学科教員	講義	発声発語・嚥下障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ小児系発話障害	2	30	1	鈴木圭子	講義		Ⅱ小児系発話障害				
					講義		Ⅲ成人系発話障害	2	30	1	鈴木真生	講義		Ⅲ成人系発話障害				
					演習		Ⅳ成人系発話障害					演習		Ⅳ成人系発話障害	1	30	2	
					講義		Ⅴ摂食嚥下障害	2	30	1	木村欣司	講義		Ⅴ摂食嚥下障害				
					演習		Ⅵ摂食嚥下障害					演習		Ⅵ摂食嚥下障害	1	30	2	
					講義		Ⅶ音声障害					講義		Ⅶ音声障害	1	15	2	
					講義		Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）					講義		Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）	1	15	2	
					演習		Ⅸケーススタディー					演習		Ⅸケーススタディー	1	30	2	
					講義		専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】					講義		専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】	1	15	2	
					講義		専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】					講義		専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】	1	15	2	
	聴覚障害学	7	8	120	講義	聴覚障害学	Ⅰ概論	1	15	1	岡野由実	講義	聴覚障害学	Ⅰ概論				
					講義		Ⅱ成人聴覚障害	2	30	1	坂本圭	講義		Ⅱ成人聴覚障害				
					講義		Ⅲ小児聴覚障害	1	15	1	伊集院亮子	講義		Ⅲ小児聴覚障害				
					講義		Ⅳ小児聴覚障害					講義		Ⅳ小児聴覚障害	1	15	2	
					講義		Ⅴ補聴器・人工内耳					講義		Ⅴ補聴器・人工内耳	1	15	2	
					講義		Ⅵ視覚聴覚二重障害					講義		Ⅵ視覚聴覚二重障害	1	15	2	
					講義		専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】					講義		専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】	1	15	2	
	臨床実習	12	15	600	実習		臨床実習Ⅰ	3	120	1	実習指導者	実習		臨床実習Ⅰ				
					実習		臨床実習Ⅱ					実習		臨床実習Ⅱ	12	480	2	
	合　計	44	67	1545				36	705						31	840		

注）講義1単位15時間、演習1単位30時間、実習及び実技1単位30時間、臨床実習1単位40時間とする。
注）講義は前・後期制。1コマの授業は100分とする。
注）「コミュニケーション技能演習」、「コミュニケーション障害演習」のうち実習は、病院または診療所、老人保健施設、老人福祉施設等で行うものとする。
注）臨床実習のうち、「実習Ⅰ（評価実習）」は病院または診療所、老人保健施設等の実習地で行うものとする。
注）臨床実習のうち、「実習Ⅱ（臨床実習）」は「病院または診療所にて320時間」「老人保健施設・難聴児通園施設・ことばの教室等にて160時間」を行うものとし、計480時間の実習を行う。

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	医学総論	林宏拓	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・医学の歴史，倫理などを学び，医学に関する基本的な知識を広く習得する。 ・患者を中心とした医療のあり方を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・誕生から死に至るまで医学に関わる倫理的問題点を考察できる。 ・インフォームドコンセント、QOL, 尊厳死などを説明できる。 ・最新の国民衛生の動向を説明できる。		
授業計画	講義内容は進行状況で変更となることもあります。 第1回目：医学の学び方　医療従事者の心構え、患者の心理 第2回目：健康の定義 第3回目：ICFの概説 第4回目：リハビリテーションでのICFの活用法 第5回目：パターナリズム、インフォームドコンセント 第6回目：尊厳死、ターミナルケア、グリーフケア 第7回目：医学的診断からみる患者特徴について 第8回目：総括 第9回目：振り返り ※　他の科目との兼ね合いで、実施内容の変更があります。		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	レポート評価100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業態度も細かに指導します。集中して講義に望んでください。		
教員紹介	林宏拓：聖パウロ病院勤務医 西片裕：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科 山崎暁：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科 木村欣司：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	生理学	米倉千晶	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	「生きることの理（ことわり)」生命のメカニズムを理解する。生命の営み、分子、細胞、組織、器官、個体の各レベルでの理解と各々が複雑に連携し1個体としての協調的技能を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・生理学（人体の技能調節）の基礎を身につけることができる。 ・臨床科目のより深い理解につなげ、対応する力が習得できる。		
授業計画	解剖学と照らし合わせながら授業をすすめます。人体の構造の理解が不十分ですと、生理学の理解は困難です。解剖学の復習をしっかり行い、授業に臨んでください。 第1回 神経 第2回 〃 第3回 〃 第4回 〃 第5回 筋 第6回 運動 第7回 感覚 第8回 内分泌，生殖・成長と老化 第9回 血液 第10回 循環 第11回 呼吸 第12回 〃 第13回 消化・吸収 第14回 栄養と代謝 第15回 体温 第16回 排泄機能の生理―尿素成と体液調節 第17回 小テスト（国家試験対策） 第18回 定期試験（振り返り）		
教科書	北村 諭他監修：『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 生理学（3版)』　中外医学社、価格：3,900円＋税		
参考書	・田中 越郎：『イラストでまなぶ生理学』医学書院、価格3,150円＋税 ・東京大学生命科学教科書編集委員会編：『生命科学』羊土社、価格2,940円＋税 ・医療情報科学研究所編集『病気がみえる（脳・神経）（呼吸器）（消化器)』メディックメディア、価格3,150円～3,990円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）で成績評価		
授業の留意点・授業外の学習活動など	人体のしくみを理解（解剖学）した上で、働き（生理学）が理解できます。生理学の理解には考える力が必要です。解剖学の教科書と合わせた学習を心掛けてください。		
教員紹介	病院の経験を経て、東京都内　医師会看護学校に勤務していた。 医療と教育の双方の経験を活かし、現在教鞭を取っている。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	病理学	山本　寛	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	病理学とは、生体に起こる病的な状態、即ち疾病の原因・本態とその成り立ちを解明する医学の基本的な学問です。疾病を起こす原因とそれぞれの疾病で生じる変化やその経過、転機を総合的に理解するために学習します。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	学習者は、疾病における形態と機能の変化を学習することにより、疾病の全体像、即ちその原因、経過、治療予後を総合的に理解できるようになります。また、疾病の本態を理解することにより、疾病の臨床事項を判断する能力を習得できます。		
授業計画	第1回　病理学の領域 第2回　病理診断検査 第3回　細胞・組織とその障害　（細胞傷害・変性・萎縮・壊死） 第4回　再生と修復（再生・化生・肉芽組織・異物の処理・肥大・過形成） 第5回　循環障害①（循環器の概要、充血・うっ血・旁側循環） 第6回　循環障害②（出血、血栓症・塞栓症・虚血と梗塞・浮腫） 第7回　炎症①（炎症の原因と経過） 第8回　炎症②（炎症の種類） 第9回　免疫（免疫に関わる細胞と免疫の分類） 第10回　アレルギー（アレルギーの種類、自己免疫疾患） 第11回　感染症 p85 第12回　物質代謝異常（脂質・蛋白・糖・その他の代謝異常） 第13回　先天異常①（先天代謝異常） 第14回　先天異常①（奇形 第15回　腫瘍①（腫瘍の特徴・発育） 第16回　腫瘍②（腫瘍の原因とメカニズム、腫瘍の診断・治療） 第17回　課題提出 第18回　試　験		
教科書	教科書：カラーで学べる「病理学」（ヌーヴェルヒロカワ発行） 第5版　渡辺　照男　編集　　本体価格：2,500円＋税 プリント随時配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）で評価します。試験には教科書の持ち込み不可です。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業時間を大切にしてください。予習として、専門用語を正しく理解できるように講義に合わせて教科書を予め熟読してください。復習として、教科書を基本に配布プリントの重要項目をまとめ・整理・確認してください。授業の説明の中で重要情報はプリントに書き込むなど工夫すると、疾病への理解・興味が増すことと思います。また、日常生活の中で身近な疾病に関心を持って下さい。出席確認は、出席表カードで行い、毎回その日の授業内容の確認も行います。		
教員紹介	医療系大学での40年に及ぶ医療技術者教育の経験を活かし、学生が医療人として信頼される医療行為が行えるよう、疾病の本態を理解し患者様に説明できる能力を身に付けられるように講義する。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	解剖学	米倉千晶	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	解剖学は医学・医療の中で最も重要な基礎科目である。それを理解することにより高度な知識および確かな技術の習得の礎を築く。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・人体の構造を理解する。 ・解剖図を描写し説明ができる。		
授業計画	資料を配布します。随時、板書や口頭で重要な点は述べていきますので書き込みをする等各自で工夫をして学習を深めてください。 第1回 解剖学総論 第2回 骨格系 第3回 筋系 第4回 循環器系 第5回 消火器系 第6回 呼吸器系 第7回 泌尿器系 第8回 生殖器系 第9回 内分泌系 第10回、第11回 感覚器 第12回～16回　神経系 第17回 小テスト（口頭試験対策） 第18回 定期試験（振り返り）		
教科書	北村 論他監修:『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 解剖学（改定3版)』　中外医学社、価格：4,600円＋税		
参考書	・松村譲兒:『イラスト解剖学』中外医学社、価格：7,600円＋税 ・松村譲兒:『イラストでまなぶ解剖学』医学書院、価格：2,730円＋税 ・坂井建雄監訳:『グラント解剖学図譜』医学書院、価格：15,750円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）で成績評価		
授業の留意点・授業外の学習活動など	解剖学をマスターする方法は普段からの復習をする着実な努力が必要です。		
教員紹介	病院の経験を経て、東京都内　医師会看護学校に勤務していた。 医療と教育の双方の経験を活かし、現在教鞭を取っている。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	耳鼻咽喉科学		1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	必要な耳鼻咽喉科学の基礎的知識を理解させる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	必要な耳鼻咽喉科学の基礎的知識を理解する。		
授業計画	第1回　全体の説明と発声の仕組み 第2回　発声の検査 第3回　発声の障害 第4回　発話の仕組み 第5回　発話の検査 第6回　発話の障害 第7回　聴覚の仕組み 第8回　聴覚の検査 第9回　聴覚の障害とまとめ		
教科書	別途指定		
参考書	言語聴覚士テキスト（第3版）　医歯薬出版　本体価格：4,200円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	解剖学、神経科学、脳科学、音声学、聴覚、音響学等、他の教科とも密接な関連があるので、これらの関連に注意する。		
教員紹介	耳鼻咽喉科学の他、音響学、音声学、他の多分野、境界領域に精通しており、音楽等にも関連している。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	内科学	佐藤和夫	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	内科学の知識を取得するために1）内科学の診療（診断・治療など）の基本を学び，2）各疾患ではその特徴と病態を理解し，3）最新の診断基準や治療についての知識を取得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	内科学の知識は多岐にわたる。まずは，概略をつかむことが重要である。すなわち，全体→細部と知識を獲得していく。その際，常に「病態」を考え，多岐にわたる知識を効率よく整理する。		
授業計画	第1回　内科学診断学総論（1） 第2回　内科学診断学総論（2） 第3回　内科学治療学総論（1） 第4回　内科学治療学総論（2） 第5回　循環器疾患（1） 第6回　循環器疾患（2） 第7回　呼吸器疾患 第8回　免疫・アレルギー・膠原病（1） 第9回　免疫・アレルギー・膠原病（2） 第10回　腎臓疾患 第11回　血液疾患 第12回　消化器疾患（1） 第13回　消化器疾患（2） 第15回　内分泌・代謝疾患（1） 第16回　内分泌・代謝疾患（2） 第17回　感染症・神経疾患・その他 第18回　定期試験（振り返り）		
教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト内科学　北村論編　中外医学社中外　改定7版（2020年3月）		
参考書	メディカルスタッフのための内科学第4版　医学出版社（2018年3月）		
成績評価の方法・基準	試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	学習したことは必ず復習する。自分の学習の軌跡や口頭で説明したことを書きとめておくための「マイノート」を必ず用意してください。授業での説明やわからないことがあった場合，質疑応答の時間を適宜，設定しますので遠慮なくご質問ください。		
教員紹介	医療法人社団　優和会，チューリッヒ生命所属。多くの実臨床経験と医学統計データ解析に従事し，これらを背景に講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	小児科学	鈴木文晴	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	1．小児保健・小児の定型発育発達・小児リハビリテーションの基礎的理解 2．小児リハビリの主要対象である神経疾患――脳性麻痺・重症心身障害・知的障害・自閉症スペクトラム障害・てんかん・筋疾患などの理解		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	1．上記1および2について、十分な基礎知識を習得する。 2．将来社会人として勤務しつつ、さらに主体的に学習する能力を身につける。		
授業計画	・テキスト・事前配布プリント・教材ビデオなども使用する。 ・予習と積極的な授業参加とをするように。 第1回：小児リハビリテーションの基礎、課題レポートの説明 第2－3回：小児保健　保健統計－出生率　乳児死亡率　人口の年齢構成 第4－5回：定型（正常な）成長と発達 第6－7回：けいれん性疾患　神経細胞の機能とその障害　てんかん発作型分類　てんかん発作の観察と対応方法 第8回：知的障害　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション 第9回：自閉症スペクトラム障害　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション 第10－11回：学習障害　注意不足多動性障害 第12回：筋疾患　小児と社会　児童虐待　感染症と予防接種 第13－14回：脳性麻痺　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション　合併症と対策 第15－16回：重症心身障害　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション　合併症と対策 第17－18回：総括　ディスカッション　患者さんおよび家族とのコミュニケーションの経験　質問コーナー		
教科書	宮尾益知編集　言語聴覚士のための基礎知識　小児科学・発達障害学（第3版） 医学書院　3,800円+税		
参考書	授業中に紹介します。		
成績評価の方法・基準	定期試験（レポート課題含む）100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	予習と授業中の活発な意見発表とを求めます。自分の経験を活かして物事を考えましょう。将来の業務に活用できように知識を身につけましょう。		
教員紹介	講義中に紹介します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	形成外科学	時岡一幸	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	形成外科の基本を理解するために、形成外科で扱う疾患、およびその治療法などを紹介する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	創傷治癒の基礎について理解できる。 代表的疾患の特徴、臨床症状、治療法などを理解できる。 口唇口蓋裂の臨床について理解できる。		
授業計画	第1回：総論（皮膚の構造、創傷治癒、形成外科の基本手技） 第2回：植皮術（遊離植皮術と有茎弁移植術） 第3回：先天性疾患（頭部・顔面、四肢、体幹など） 第4回：口唇口蓋裂（分類・疫学・発生・病理、新生児期・乳児期の治療） 第5回：口唇口蓋裂（幼児期・就学期の治療） 第6回：外傷・熱傷（外傷総論、軟部組織外傷、顔面骨骨折、熱傷） 第7回：褥瘡・再建外科（褥瘡、頭頸部再建、乳房再建） 第8回：美容医療（眼瞼、外鼻などの美容外科手術、レーザー治療など） 第9回：定期試験（振り返り） （講義の日程は変更になる可能性があります。）		
教科書	プリント配布		
参考書	口唇口蓋裂の総合治療　森口隆彦　編　克誠堂 標準形成外科　第7版　波利井清紀 編　医学書院 TEXT形成外科学　波利井清紀　編　南山堂		
成績評価の方法・基準	定期試験　100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	PCプレゼンテーション形式		
教員紹介	埼玉医科大学　形成外科・美容外科　准教授		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床神経学	佐藤和夫	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	臨床神経学の学習では各神経疾患の徴候や理学所見を理解するには生理・解剖がとても重要である。全般的なこと（総論）や各論では神経感染症，脳卒中，変性・脱髄疾患，認知症，外傷や脳腫瘍などに関する知識を取得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	臨床神経学では重要なポイントをつかみ，適宜，「知識の交通整理」する。各論では脊髄小脳変性症 SCD など，聞きなれない疾患名が多い。その理解では病態を理解し，かつ，反復学習をすることが肝要である。		
授業計画	第1回　神経学総論、解剖・生理 第2回　診断学・症候学のポイント（1） 第3回　診断学・症候学のポイント（2） 第4回　中枢神経疾患感染症 第5回　脳血管障害（脳卒中）（1） 第6回　脳血管障害（脳卒中）（2） 第7回　認知症 第8回　変性疾患（1） 第9回　変性疾患（2） 第10回　脱髄疾患 第11回　筋疾患・神経筋接合部疾患（1） 第12回　筋疾患・神経筋接合部疾患（2） 第13回　末梢神経疾患 第14回　頭部外傷 第15回　脳腫瘍 第16回　てんかん・頭痛 第17回　神経学のトピックス・重要事項まとめ 第18回　定期試験（振り返り）		
教科書	別途指定		
参考書	別途指定・プリント配布		
成績評価の方法・基準	試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	学習にあたっては「臨床神経学・マイノート」を必ず準備していただきたい。授業中，適宜，質疑応答の時間を設定する。有意義に活用していただきたい。		
教員紹介	医療法人社団　優和会，チューリッヒ生命所属。多くの実臨床経験と基礎医学の経験があります。これらを背景に講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学	田口弘之 （多摩リハビリテーション病院） 中村晃一 （作業療法学科 専任教員）	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士が直接的に精神障害者への治療・支援を実施する機会は少ないが、メンタルヘルスが身体面へ及ぼす影響は大きく、基礎的な精神障害（疾患）について学習する必要がある。この授業にて、精神障害（疾患）への理解を深め、実際の臨床場面でも患者様のメンタル面を考慮する視点を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・基礎的な精神障害（疾患）について理解し、他者に説明できるようになる。 ・精神障害者に対し、どのような治療・支援が行われているかを理解し、他者に説明できるようになる。		
授業計画	第1回　精神医学とは 第2回　気分障害 第3回　統合失調症① 第4回　統合失調症② 第5回　神経症圏の障害 第6回　アディクション 第7回　パーソナリティ障害／摂食障害 第8回　精神領域で用いられるコミュニケーション技術 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	・太田保之・上野武治（編）:『学生のための精神医学（第3版）』医歯薬出版、価格：3,500円＋税 ・随時資料を配布します。		
参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	限られた講義時間ですので、講義中に質問等を受けることが難しい場合もありますが、理解できなかった事や納得できなかった事は、早い段階で担当教員に声をかけ解決するように努めて下さい。		
教員紹介	精神医療現場にて臨床を重ねた教員が、疾患についての基本的な理解ができるよう説明をします。また、臨床でのエピソード等も加え実際の患者像を伝えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	リハビリテーション医学	佐藤和夫・中田史宏・木村欣司	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	リハビリテーション医療に従事する専門職として必要なリハビリテーションに関する知識や感染拡大防止するための基礎知識を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	この講義を通じて、以下のことを達成することが目標となる。 ① 超高齢化社会を取り巻く環境について理解する。 ② リハビリテーション医療と概要を理解する。 ③ リハビリテーションで取り扱われる検査を理解する。 ④ リハビリテーションにおける多職種連携を理解する。 ⑤ リハビリテーションに従事するための感染予防について基礎知識を用いて防止に努めることができる。		
授業計画	第1回　超高齢化社会を取り巻く環境 第2回　リハビリテーション医療の現状（総論） 第3回　リハビリテーションにおける多職種連携について 第4回　リハビリテーションにおける感染予防① 第5回　リハビリテーションにおける感染予防② 第6回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 第7回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 第8回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 第9回　試験（振り返り）		
教科書	・適宜資料配布		
参考書	・学生のためのリハビリテーション医学概論　医歯薬出版　柏森良二　著 価格：2,400＋税 ・現代リハビリテーション医学 改訂第3版　金原出版　千野直一　著 価格：8,800＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・国試にも出題される大事な教科です．アクティブな姿勢を求めます． ・また、資料配布しないものは、ノートテイクをしっかりとしてください。		
教員紹介	佐藤和夫：医療法人社団　優和会，チューリッヒ生命所属 中田史宏：多摩リハビリテーション学院専門学校　看護師 木村欣司：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床歯科医学・口腔外科学		1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	顎顔面を構成する組織、器官の構造と生理的機能および発生の仕組みを知るとともに、臨床歯科科目の対象とする疾病・疾患に関する知識を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	人体、特に顎顔面領域の基本構造について解剖学用語を用いて説明できる。 顎顔面領域を構成する骨と関節の特徴について説明できる。 顎顔面領域を構成する主要な筋の起始停止・走行・作用・神経支配を説明できる。 臨床歯科科目の対象とする疾病・疾患、特に顎変形症および顎口腔領域に関する先天性疾患の特徴を説明できる。		
授業計画	第1回：言語障害と歯科医学、頭蓋顔面骨と筋肉の解剖 第2回：歯・歯周組織の解剖と疾患 第3回：舌・唾液線の解剖と疾患 第4回：顔面領域の神経の解剖と疾患 第5回：顎骨・顎関節の解剖と疾患 第6回：顎変形症の治療、顎顔面補綴 第7回：口唇口蓋裂、顎口腔領域に関する先天異常 第8回：まとめと演習 第9回：定期試験（振り返り）		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・道健一編著：『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学』 医歯薬出版、価格：4,000円＋税 ・高橋和人編：『自分でつくるぬりえ口腔解剖学ノート（第4版）』 学建書院、価格：3,600円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・ 授業外の学習活動など	本年度カリキュラムでは、頭顎部解剖について詳細な講義を行うことが困難なため、各自予習をすること。		
教員紹介	東京医科歯科大学　顎顔面矯正学分野　所属		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語聴覚医学 (呼吸発声発語系)	鈴木真生	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	発声発語、摂食嚥下に関わる障害を評価するための基礎知識として、呼吸・発声・構音に関わる器官の解剖機能について学び、呼吸・発声・構音のメカニズムを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・呼吸・発声・構音に関わる器官の基本構造（メカニズム）が説明できる。 ・呼吸・発声・構音に関わる器官の機能が説明できる。 ・呼吸・発声・構音に関わる器官の病態が説明できる。		
授業計画	◆呼吸・発声・構音に関わる器官の解剖生理や病態を学習する。筋や骨、神経の名称など覚えることが多くあり、メカニズムの理解に繋げるためにも復習を心がける。 ◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 第1回　オリエンテーション 第2～4回　呼吸器系の解剖生理（基本構造、機能、病態等） 第5～7回　喉頭の解剖生理（基本構造、機能、病態等） 第8～9回　咽頭の解剖生理（基本構造、機能、病態等） 第10～11回　鼻咽腔の解剖生理（基本構造、機能、病態等） 第12～13回　口腔・顔面の解剖生理（基本構造、機能、病態等） 第14～15回　脳神経について 第16～17回　発声発語障害と摂食嚥下障害との関わり 第18回　定期試験（振り返り）		
教科書	1）坂井健雄監訳：プロメテウス解剖学コアアトラス第3版、医学書院、価格9,500円＋税 2）馬場元毅：絵でみる脳と神経　しくみと障害のメカニズム第4版、医学書院、価格2,800円＋税		
参考書	1）新美成二監訳：発話メカニズムの解剖と生理、インテルナ出版、価格2,800円＋税 2）舘村卓監訳：ゼムリン言語聴覚学の解剖生理第4版、医学書院、価格9,400円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（80%）、小テスト（20%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	情報量・学習量が多いため、メモを取る習慣をもち、主体的に臨んでください。講義中の飲食および私語は禁止です。		
教員紹介	20年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、言語・コミュニケーション障害、摂食嚥下障害を理解するうえでの基盤になる解剖生理・病態とその関連について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語聴覚医学 (聴覚系)		2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	聴覚系の解剖学的・神経学的な知識を学び、それらの機構に生じる種々の障害についてその病態とともに理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	解剖学的な知識について理解し、それぞれの器官がもつ機能、およびそれらが障害された場合の疾患を説明できるようになる。		
授業計画	第1回～第2回　言語聴覚士の臨床の立場から音声言語聴覚医学を学ぶ 第3回～第4回　耳ときこえと言語 第5回～第6回　聴覚系の解剖生理学 第7回～第8回　聴覚系の解剖生理学 第9回～第12回　外耳・中耳・内耳疾患の病態と検査 第13回～第16回　聴覚障害児の言語習得と言語指導 第17回　課題 第18回　定期試験（振り返り） ※　講義内容や順番が変更となることがあります。		
教科書	随時資料配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準			
授業の留意点･授業外の学習活動など	積極的に授業へ参加すること。		
教員紹介			

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語聴覚医学（神経系）	天野カオリ	2単位・30時間
授業の概要（授業の目的）	学生が人体における神経系（中枢/末梢）を総括的に学べるように総論各論と並行して言語聴覚と関連する神経系領域と機能構造における解剖学の習得を目的とする。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	実習や臨床現場で応用・対応できる神経系機能構造の理解を目標とする。 国家試験対応できるノート作成を心掛ける。 中枢・末梢神経障害・損傷による運動・機能障害における領域別に理解する。		
授業計画	第1回：神経学総論Ⅰ（発生・中枢神経と末梢神経） 第2回：神経学総論Ⅱ（神経細胞の機能と構造） 第3回：脊髄の構造と機能／髄膜の構造・脳脊髄液の分布と働き 第4～5回：脳の区分・脳溝・脳回／脳の機能Ⅰ（終脳と間脳） 第6～7回：脳の機能Ⅱ（脳幹・大脳基底核・小脳）・伝導路について 第8回：脳神経総論（中間試験） 第9～10回：脳神経各論（分布領域と機能と疾患について） 第11回：脳の血管系Ⅰ（動脈・静脈と分布領域） 第12回：脳の血管系Ⅱ（脳の血管障害による症状と運動機能障害） 第13回：全身の末梢神経Ⅰ（皮神経・皮節・頚神経叢皮枝と筋枝） 第14回：全身の末梢神経Ⅱ（上・下肢の神経分布） 第15回：自律神経系 第16～17回：まとめ 第18回：定期試験（振り返り）		
教科書	監訳 坂井建雄：『プロメテウス解剖コアアトラス第3版』、医学書院、9,500円＋税		
参考書	必要に応じて随時資料を配付します。講義内容の関係より、録音撮影の禁止厳守でお願いします。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	基本的に板書中心ですが、状況によりパワーポイントなど資料を使用します。ノートはしっかり自己管理できるものを用意して下さい。		
教員紹介	20年以上に渡る医学部・歯学部での解剖学教育経験と研究実績を生かして神経系の構造仕組みについて講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	認知・学習心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の心というものを理解するために、教科書に沿って人間行動の構造を概観するとともに、人間全体に対する客観的・科学的視点を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理学がどのような学問かを説明できる。 ・心理学の方法論を説明できる。 ・各心理学用語を説明できる。 ・日常の人間行動について心理学用語を用いて表現できる。		
授業計画	授業は主に心理学用語の説明になります。特に国家試験に出題されている用語は、正確に理解して確実に覚えてください。そのために必要があれば復習をしてください。 第1回　心理学の視点 第2回　心理学の歴史 第3回　科学とは何か 第4回　心理学の方法 第5～6回　感覚の分化と統合 第7～8回　視知覚 第9～10回　条件づけ 第11～12回　技能学習 第13～14回　記憶 第15回　問題解決 第16回　知識 第17回　推論と発見 第18回　試験		
教科書	鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃(編)　『心理学［第5版補訂版］』　東京大学出版会 2,400円＋税		
参考書	詫摩武俊(編)　『心理学［改訂版］』　新曜社　1,700円 長谷川寿一／東條正城／大島尚／丹野義彦　『はじめて出会う心理学』 有斐閣アルマ　1,900円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	自分の行動を振り返って、そこに注意を向けてみましょう。同時に、他者に対する気配りを心がけてください。		
教員紹介	いくつかの専門学校で様々な心理学の講義経験が25年以上、臨床心理士として心理臨床経験が20年以上の教員が、できるだけ具体的にわかりやすく講義するよう心がけます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	生涯発達心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の心の発達を理解するために、教科書を精読し、さまざまな心的機能の発達を概観するとともに、縦断的な視点も身につけていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・生涯発達心理学がどのような学問かを説明できる。 ・発達心理学の方法論を説明できる。 ・各発達心理学用語を説明できる。 ・実際の人間の発達現象について心理学用語を用いて表現できる。		
授業計画	授業では特に教科書を深く読み込んでいきながら、人間の発達というものを細かく考察していきます。教科書をただ読むだけではなく、できるだけ広く深く想いをめぐらせてみてください。一部、演習も行います。同時に用語も覚えてください。 第1回　発達の生物学的基礎 第2回　発達の過程 第3回　初期経験と臨界期 第4回　発達を支える社会的・文化的環境 第5～7回　乳児期（0歳～2歳） 第8～9回　幼児期（2歳～4歳） 第10～11回　児童期（4歳～7歳） 第12～13回　学童期（7歳～思春期） 第14回　Piaget,J.による認知的発達理論（演習） 第15回　Freud,S.による心理・性的発達理論（演習） 第16回　Erikson,E.H.による心理・社会的発達理論（演習） 第17回　発達と教育、個人差と教育（演習） 第18回　試験		
教科書	高橋道子／藤崎眞知代／仲真紀子／野田幸江　『子どもの発達心理学』 新曜社　1,957円		
参考書	鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃(編)　『心理学［第5版］』　東京大学出版会 2,400円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	自分自身がどのように発達してきたかをできるだけ客観的に振り返ってみましょう。		
教員紹介	いくつかの専門学校で様々な心理学の講義経験が25年以上、臨床心理士として心理臨床経験が20年以上の教員が、できるだけ具体的にわかりやすく講義するよう心がけます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	臨床心理学	藤枝　幹大	3単位・45時間
授業の概要 (授業の目的)	臨床とは何かを理解するために、臨床心理学の教科書に沿って心理臨床活動を概観するとともに、臨床実践の面白さと奥深さと難しさを実感する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床心理学がどのような学問かを説明できる。 ・各臨床心理学用語を説明できる。 ・臨床実践として対象者の心理状態を推測し、適切な行動がとれる。		
授業計画	授業は、臨床実践的感覚を少しでも感じられるように、演習を多く取り入れます。その中で体験していることを吟味し、学習し、今後の活動に役立ててください。特に失敗したことは意味深いですので、失敗を恐れずに挑戦しましょう。同時に国試対策として、用語も確実に覚えていきます。 第1回　自己カウンセリング（演習） 第2回　臨床心理学の定義と基本構造 第3回　臨床心理学の歴史 第4～5回　正常と病理の概念 第6～7回　ディスカッション（演習） 第8～9回　面接による心理アセスメント 第10～12回　検査による心理アセスメント（一部演習） 第13回　観察による心理アセスメント 第14回　クライエント中心療法（演習） 第15回　ビデオ鑑賞　ディスカッション 第16回　模擬カウンセリング（演習） 第17～19回　各種心理療法（演習） 第20回　ビデオ鑑賞、解説 第21～26回　各種心理療法（演習） 第27回　試験		
教科書	下山晴彦(編)　『よくわかる臨床心理学[改訂新版]』　ミネルヴァ書房　3,000円＋税		
参考書	加藤義明／中里至正／鳴澤實(編著)　『入門臨床心理学』　八千代出版　2,300円＋税 野島一彦(編著)　『臨床心理学への招待』　ミネルヴァ書房　2,500円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	臨床の根幹はコミュニケーションです。とくに非言語的コミュニケーションに注意を向けてください。また、講義を受けながら、演習を行いながら、他者に気を遣いながら、より深く自分自身を知っていくことが本質的な目的になります。		
教員紹介	いくつかの専門学校で様々な心理学の講義経験が25年以上、臨床心理士として心理臨床経験が20年以上の教員が、できるだけ具体的にわかりやすく講義するよう心がけます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	心理統計法	小野口　航	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	2学年次および他授業での統計学的課題や解説を適切に理解するために，データを数値化する方法や検定の手順など基礎的な統計知識を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・代表値や散布度を算出し、それらの統計量について説明できる。 ・推測統計の考え方や統計的仮説検定の手順を説明，意味を理解できる。 ・基礎的な統計手法の目的を説明し、結果の解釈ができる。		
授業計画	偶数回授業時に確認問題を行い，次回の授業冒頭に復習しながら進めます。 第1回　心理統計とは 第2回　記述統計：1つの変数の特徴を記述する（1） 第3回　記述統計：1つの変数の特徴を記述する（2） 第4回　記述統計：2つの変数の関係を記述する（1） 第5回　記述統計：2つの変数の関係を記述する（2） 第6回　復習（小テスト） 第7回　推測統計の基礎：標本から母集団を推測する（1） 第8回　推測統計の基礎：標本から母集団を推測する（2） 第9回　推測統計：統計的仮説検定の考え方 第10回 推測統計：統計的仮説検定の考え方 第11回 推測統計：統計的仮説検定の実際（1） 第12回 推測統計：統計的仮説検定の実際（2） 第13回 推測統計：統計的仮説検定の実際（3） 第14回 復習（小テスト） 第15回 推測統計：2つの平均を比較する（1） 第16回 推測統計：2つの平均を比較する（2） 第17回 復習・質問対応 第18回 定期試験（振り返り）		
教科書	毎回資料を配布する。		
参考書	板口典弘・森数馬(2017)『ステップアップ心理学シリーズ 心理学統計入門 わかって使える検定法』 講談社サイエンティフィク※買う必要は無し		
成績評価の方法・基準	期末試験80%，小テスト20%（予定） 期末試験，小テストでは持ち込みは認めない。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	ルート計算のできる電卓を初回までに用意し，毎回の講義に忘れず持参すること。電卓は、携帯電話やカード電卓などではないもの，ある程度大きいものが操作しやすく望ましい。		
教員紹介	専門領域は，老年心理学，健康心理学で，特に地域高齢者の社会関係・周辺環境と精神的健康との関連に興味があります。国家試験に必要な知識だけでなく，他授業や就職後にも必要となる統計の基礎，面白さを紹介できたらと思います。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語発達学	霍間 郁実	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	ことばに関わる支援を行うための基礎として、ヒトがどのように言語を獲得してきたかを知り、新生児から成人に至るまでの言語発達のプロセスを把握する。同時に、各発達段階における言語発達の特徴を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ことばの発達のプロセスを全般的な発達の中でとらえることができる。 ・各発達段階における言語発達の特徴を理解し、説明できる。		
授業計画	第1回～第3回　言語の役割とその進化 第4回～第6回　言語発達理論 第7回　まとめ① 第8回～第10回　言語発達の様相（1）新生児期～乳児期 第11回～第13回　言語発達の様相（2）幼児期～学童期 第14回　まとめ② 第15回～第17回　言語発達と障害 第18回　定期試験		
教科書	随時資料を配布する		
参考書	・岡本夏木：『子どもとことば』岩波新書、価格：735円＋税 ・中川信子：『発達障害とことばの相談―子どもの育ちを考える言語聴覚士のアプローチ』小学館、価格；740円＋税		
成績評価の方法・基準	期末試験70%、レポート30%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	毎回コメントカードを配布します。感想や質問、さらに知りたいことなど自由に記入してください。質問等については次回講義時に解説します。不明点を残さないよう積極的にコメントカードを活用してください。		
教員紹介	障害児者へのことばの指導や学習支援を行ってきた教員が、ヒトがどのようにことばを獲得し、習得し、発達させていくのかについて、一連の流れを概説するとともに、各発達段階における言語発達の特徴を解説します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語学	勝山裕之	3単位45時間
授業の概要 (授業の目的)	国家試験に対応できるように、言語学の基礎と日本文法の基礎を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語学の基礎と日本文法の基礎の知識を習得し、実際の症例に対応する際にその知識が応用できるようにする。		
授業計画	言語学は言語を科学的に分析する学問である。音声学・音韻論や形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、心理言語学等の基礎を学び、さらに、日本文法の基礎を確認する。その後に、国家試験の過去問題や予想問題の解説を行う。 第1回　言語学とは何か 第2回　音声学・音韻論(1) 第3回　音声学・音韻論(2) 第4回　音声学・音韻論(3) 第5回　形態論(1) 第6回　形態論(2) 第7回　形態論(3) 第8回　統語論(1) 第9回　統語論(2) 第10回　意味論 第11回　語用論 第12回　国家試験過去問題演習(1) 第13回　国家試験過去問題演習(2) 第14回　中間試験 第15回　中間試験の解答・解説 第16回　社会言語学 第17回　心理言語学(1) 第18回　心理言語学(2) 第19回　日本文法(1) 第20回　日本文法(2) 第21回　日本文法(3) 第22回　日本文法(4) 第23回　国家試験過去問題演(3) 第24回　国家試験過去問題演(4) 第25回　国家試験過去問題演(5) 第26回　学期末試験（振り返り） 第27回　学期末試験の解答・解説		
教科書	日野資成：『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房、価格：1,700円＋税 プリント随時配布		
参考書	中島平三・外池滋生編著：『言語学への招待』大修館書店、価格2,000円＋税		
成績評価の方法・基準	中間試験、学期末試験（割合講義時説明）（定期試験は持ち込み一切不可）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	国家試験の言語学の範囲で9割以上正解することを目標とするので、全力で真面目に取り組むこと。私語厳禁。		
教員紹介	元々は英文法や英語の言語学から言語学の世界に入り、大学院生の時に日本語の言語学に関心を抱き、現在に至っています。日本語の構造を考察する際に、常に英語の構造と比較対照するという習慣は、現在でも言語学を考察する際に大変役に立っています。今まで一貫して文法に、とりわけ統語論に関心を抱いています。一緒に言語学の基礎を学んでいきましょう。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声学	田中邦佳	3単位・45時間
授業の概要 (授業の目的)	「音」に関する分野である音声学、音韻論に関する知識を一通り得ることを目的とする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声記号の読み書きを行う ・日本語の音声に見られる様々な体系的な事項について説明する ・実際の音声現象に見られる規則性を発見し記述する		
授業計画	第1回: Introduction 第2回: 音声学とは 第3回: 音声器官 第4回: 調音点について 第5回: 調音方法について 第6回: 国際音声字母（IPA） 第7回: 子音1 第8回: 子音2 第9回: 母音1 第10回: 母音2 第11回: 中間テスト(発音テスト) 第12回: 音節1 第13回: モーラ 第14回: 音の並びの規則（phonotactics） 第15回: アクセント1 第16回: アクセント2 第17回: イントネーション 第18回: 音素1 第19回: 音素2 第20回: 音素3 第21回: 音声学と音響学1 第22回: 音声学と音響学2 第23回: 音響音声学の基礎1 第24回: 音響音声学の基礎2 第25回: 音響音声学の基礎3 第26回: 調整時限 第27回: 定期試験（振り返り） ※学習理解度に応じて、授業の順番が変更になる場合があります。		
教科書	斎藤 純男：『日本語音声学入門（改訂版）』三省堂、価格：2,000円＋税		
参考書	今泉 敏（編）：『言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学』 医学書院、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	試験（80%）、授業内外の課題の提出状況（20%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	調音器官の動きを意識しながら音を発して、自分がどのように調音しているか、その感覚を自分で掴むことが理解に繋がります。覚えておくことが必要な項目もありますが、その知識を利用し、身近な音声現象例を分析し、言葉で説明できるようになることは、音声知識の実用に不可欠なことです。自ら発音して実感し、分析・考察することが理解に繋がります。		
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	聴覚心理学	田嶋　圭一	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の感覚様相（いわゆる五感）の中でも視覚に次いで重要かつ言語コミュニケーションにとって不可欠とされる「聴覚」の仕組みについて学びます。我々は周囲の音の様々な特性をどのように聞き取っているのか，それはどのようなメカニズムによって成り立っているのかについて理解を深めます。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	音の様々な特徴（大きさ，高さ，音色，音源の位置）などを我々はどのように知覚しているのかについて理解を深め，他者に分かりやすく説明できるようになることを授業の目標とします。		
授業計画	第1回　導入，音の大きさの知覚（1） 第2回　音の大きさの知覚（2） 第3回　マスキングと臨界帯域（1） 第4回　マスキングと臨界帯域（2） 第5回　音の高さの知覚（1） 第6回　音の高さの知覚（2） 第7回　空間知覚（1） 第8回　空間知覚（2），授業のまとめ 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	吉田友敬（2020）.『言語聴覚士の音響学入門』，海文堂.（2,600円＋税） 上記の書籍のほかに，授業にて適宜資料を配布します。		
参考書	B.J.C.ムーア（著）・大串健吾（監訳）（1994）.『聴覚心理学概論』，誠信書房.（4,500円＋税） 重野純（2014）.『音の世界の心理学（第2版）』，ナカニシヤ出版.（2,600円＋税）		
成績評価の方法・基準	課題30%，期末試験70%の割合で評価する予定です。授業内容に関わる課題を学期中に出題します。また，授業全体の内容の理解度を確認するための試験を最後に行います。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業では講義に加えて個人またはグループで課題に取り組む時間を設ける予定ですので，積極的に参加してください。また，自分で毎回の課題に取り組むことで授業外でも復習・理解度チェックを行ってください。		
教員紹介	専門は実験音声学，音韻論，言語学，心理言語学です。話し言葉の産出・知覚・学習のプロセスに興味があり，特に外国語の音声を人がどのように発話・聴取・習得するのかについて研究しています。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音響学	田中邦佳	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	どのように発音するのかを学ぶのが音声学なら、発音された音声が物理的にどのような特性を持っているかを学ぶのが音響学です。本授業では、音声の物理的な特性およびその理論についての知識を得ることが目的です。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声の物理的特性に関する各種計算を行う ・理論について理解し、図や表のデータを読み取り、そのデータで何が示されているのかを説明する ・音声の音響分析を行う		
授業計画	第1回: 音波とは 第2回: 正弦波1 第3回: 対数の計算 第4回: デシベルについて 第5回: デシベル計算1 第6回: デシベル計算2 第7回: 正弦波2 第8回: 周波数・波長 第9回: 中間試験 ※学習理解度に応じて、授業の順番が変更になる場合があります。	第10回: 共鳴 第11回: 倍音 第12回: スペクトル・スペクトログラム 第13回: 音声のデジタル化・発話実験 第14回: ソース・フィルター理論 第15回: 母音の音響的特徴 第16回: 子音の音響的特徴 第17回: 調整時限 第18回: 定期試験（振り返り）	
教科書	吉田 友敬:『言語聴覚士のための音響学入門』 海文堂、価格：2,600円＋税		
参考書	青木 直史:『ゼロからはじめる音響学』 講談社、価格：2,600円+税		
成績評価の方法・基準	試験（80%）、授業内外の課題の提出状況（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	音響学に計算はつきものです。なかなか理解が難しいかもしれませんが、積み重ねが大事ですので、大まかなストーリー（順番）を把握できるようになりましょう。 音声の音響分析では、Praat というソフトウェアを使用します。以下のURLから無料でダウンロードすることができます。 http://www.fon.hum.uva.nl/praat/		
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義、演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論	鈴木健二郎・林義巳・鎌田小百合・岩田一鷹・佐藤譲司	1単位・30時間

授業の概要（授業の目的）	リハビリテーション医療における職種と業務を理解するために、理学療法と作業療法の知識と技術の修得をする。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	リハビリテーション・作業療法・理学療法の違い、それぞれの概念、業務内容を理解する。言語聴覚士となるための評価技術、臨床での考察するツールとして取り入れる事ができる。		
授業計画	介護分野	作業療法分野	理学療法分野
	第1回～第2回　介護とは、介護の誕生と歴史的、社会的背景認知症について 第3回～第4回　実技①②ボディメカニクスについて、ベッド上の介助、移乗、移動介護 第5回～第6回　実技③④ 第7回～第8回　実技⑤⑥ シーツ交換、排泄、更衣 第9回　試験（振り返り） ※授業順番は変更する可能性があります。	第1回 身体障害分野の作業療法 第2回 子どもの作業療法 第3回 精神領域の作業療法 第4回 作業分析 第5回 レポート課題（振り返り）	第1回 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝと理学療法 第2回 運動療法と物理療法について 第3回 姿勢観察と解釈 第4回 介助について 第5回 試験（振り返り）
教科書	適宜資料配布	適宜資料配布	適宜資料配布
参考書	指定なし	指定なし	椿原彰夫著：『ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論(改訂第2版)』診断と治療社、価格：3,600円+税
成績評価の方法・基準	介護分野：定期試験50% 作業療法分野：レポート25% 理学療法分野：定期試験（筆記試験：持ち込み不可）25% ※介護分野・作業療法分野・理学療法分野を合算し、100%となります。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	第3回~第8回までは介護実技の演習となります。髪の毛を束ねて動きやすい服装、運動靴を準備すること。	身体障害領域、精神障害領域、発達障害の主に3分野のOTの職域について、その特徴把握を追及してください。	不明な点がありましたら適宜質問してください。
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士が担当します。	各領域で臨床に携わっていた教員が、現場の話を織り交ぜて講義します。	理学療法学科専任教員担当します。理学療法の一部分を紹介いたします。

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害概論	木村欣司	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚療法の基本概念を習得するために、言語聴覚士の学問領域とその歴史、法律、職業倫理、基本的態度を身につける。また各論を学ぶ際の前段階として、基本的な言語コミュニケーションに関する基礎力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚士の職務・活動・法律について説明できる。 ことばに関係する脳の活動と関連する発声発語器官を説明できる。 医療人として自覚をもち、人（患者様）と関わることができる。		
授業計画	第1回～第2回：言語聴覚士の適正について 第3回～第4回：言語聴覚士について 第5回～第6回：言語聴覚士について及び言語聴覚士法・職業倫理 第7回～第9回：言語聴覚士の業務 第10回～第11回：ことばと脳のしくみ・言語とコミュニケーション 第12回～第13回：ことばと脳のしくみ・言語とコミュニケーション 第13回～第14回：バイタルサインについて 第15回～第16回：地域言語聴覚療法 第17回　：総括 第18回　：定期試験（振り返り） ＊授業内容は他の講義の進行により変更する場合があります。		
教科書	適宜資料配布		
参考書	藤田郁代監修：『言語聴覚障害学概論　第2版』 医学書院、価格5,000円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	医療人として、また言語聴覚士を目指す者として大事な科目です。一緒に理解を深めていきましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として、実務経験をもつ教員が学生に対し、言語聴覚療法に関わる前段階である、言語聴覚士の成り立ちや法律、倫理、医療人としての基本的態度などを学習する科目です。また、今後の言語聴覚療法各論の理解を促進するために、本科目では言語聴覚療法で携わるすべての障害を紹介する。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚診断学	木村欣司・山崎暁	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚臨床の核となる、評価・診断の手続きと解釈ができるようになるために、言語聴覚療法で取り扱う検査の施行・注意点・解釈を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	① 言語聴覚士の臨床と検査の位置づけを説明できる。 ② 各言語聴覚検査の意義が説明できる。 ③ 各言語聴覚検査が施行できる。 ④ 各言語聴覚検査の結果から障害像を説明できる。		
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：言語聴覚療法の流れ 第3回：言語聴覚療法の流れ 第4回：WAIS-R /WAIS-Ⅲ 第5回：WAIS-R /WAIS-Ⅲ 第6回：手続き・解釈 第7回：手続き・解釈 第8回：kohs立方体組合せ検査 /レーブン色彩マトリックス検査 第9回：kohs立方体組合せ検査 /レーブン色彩マトリックス検査 第10回：手続き・解釈 第11回：ストループテスト・トレールメイキングテスト 第12回：手続き・解釈 第13回：仮名ひろいテスト・前頭葉機能検査（FAB） 第14回：手続き・解釈 第15回：確認試験 第16回：確認試験 第17回：確認試験 第18回：確認試験 ＊他の講義との関連で、実施検査が変更になる場合があります。		
教科書	適宜資料配布		
参考書	藤田郁代監修：『言語聴覚障害学概論第2版』医学書院、価格：5,000円＋税		
成績評価の方法・基準	確認試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	紹介する検査は高頻度のものです。講義外時間にも学生各自、検査施行・解釈を行うようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の言語聴覚療法領域での実務経験をもつ教員が学生に対し、言語聴覚士で扱う検査の概要や施行方法、症例を通じた統合解釈を行う科目です。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期・後期	講義・実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	コミュニケーション技能演習	鈴木真生・木村欣司・西片裕・山﨑暁・実習指導者	2単位・60時間
授業の概要（授業の目的）	言語聴覚士に必要とされる基本的コミュニケーションとコミュニケーション技能の在り方を理解し、実習を通して発展させる。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	・コミュニケーションの成り立ちを説明できる。 ・コミュニケーションの方法と技能について説明できる。 ・相手の話を傾聴し、共感することができる。 ・非言語情報を読み取り、相手への理解を深めることができる。 ・相手に合わせた伝達方法を説明できる。 ・コミュニケーションが良好な人間関係に及ぶ影響を説明できる。 ・実習を通してコミュニケーション技能を発展させる。		
授業計画	コミュニケーションは他者と関わるうえで必要不可欠なものである。言語聴覚士としてのコミュニケーションスキルの在り方について理解を深め、実践学習として実習を行う。さらに実際のコミュニケーションを通してその技能の向上についてディスカッションを行う。 第1回：コミュニケーションとコミュニケーションスキル 第2回：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 第3回：傾聴（態度・共感・反応） 第4回：傾聴を活かしたコミュニケーション（話を引き出す・話題提供） 第5回：正しく伝えることの重要性 第6回：相手にわかりやすく伝えることの重要性 第7回：協調性 第8回：コミュニケーションと信頼関係 第9～10回：言語聴覚士として必要なコミュニケーションスキル 第11～34回：コミュニケーション技能演習（実習） 第35～36回：グループディスカッション		
教科書	プリント随時配布		
参考書	1）山口美和：PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第2版、医学書院、価格2,800円＋税 2）松村真司・箕輪良行編集：コミュニケーションスキル・トレーニング～患者満足度の向上と効果的な診療のために～、医学書院、価格3,500円＋税		
成績評価の方法・基準	実習成績（50%）、レポート課題（実習前後）（50%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	実習を通して言語聴覚士に必要とさせるコミュニケーション技能を学ぶことを念頭におき、実習時は意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝は忘れてはならない。		
教員紹介	言語聴覚士の経験をもつ学科教員が言語聴覚士に必要とされる基本的コミュニケーションとコミュニケーションスキルの在り方を講義します。さらに、介護老人保健施設や介護福祉施設等の実習施設において、各施設で勤務される実習指導者が実践を通してコミュニケーションについて指導します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期・後期	講義・実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	コミュニケーション障害演習	木村欣司・西片裕・山﨑暁・鈴木真生 実習指導者	2単位・60時間
授業の概要（授業の目的）	コミュニケーション障害のある方と関わるうえで必要とされるコミュニケーション技能を学習し、実習を通して発展させる。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	・見学において、適切な態度や行動（挨拶・言葉遣い等）をとることができる。 ・病院・施設の機能、言語聴覚士の役割について理解し説明できる。 ・言語聴覚臨床に接し、コミュニケーションに障害のある方に対する適切なコミュニケーション技能について理解し実践できる。 ・言語聴覚臨床に接し、臨床観察の視点で客観的に記録することができる。 ・実習を通して、コミュニケーション障害のある方と関わるうえで必要とされるコミュニケーション技能を発展させる。		
授業計画	コミュニケーション技能で学んだ知識とコミュニケーション技能を具体的に実践学習する。コミュニケーション障害のある方との関わりを通して、言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能について理解を深める。さらにその技能の向上についてディスカッションを行う。 第1～3回：失語症のある方との関わり方とコミュニケーション手段の選び方 第4～6回：ディサースリアのある方との関わり方とコミュニケーション手段の選び方 第7～8回：認知症のある方との関わり方とコミュニケーション手段の選び方 第9～10回：臨床観察の視点と記録方法について 第11～34回：コミュニケーション障害演習（実習） 第35～36回：グループディスカッション		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	実習成績（30%）、実習記録（20%）、レポート課題（50%） ※実習は1日8時間とし、5日間とする。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習を通してコミュニケーション障害のある方と関わることを念頭におき、実習時は意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝は忘れてはならない。		
教員紹介	言語聴覚士の経験をもつ学科教員が言語聴覚臨床に必要とされるコミュニケーション技能について講義します。さらに、病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害学演習	木村欣司・西片裕 山﨑暁・鈴木真生 実習指導者	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・失語・高次脳機能障害、ディサースリア、摂食嚥下障害について評価・考察ができるようになるために、検査、評価の流れ等、臨床家として必要な基礎的な能力を身につける。 ・これまで学んだ領域の知識、技能を統合する力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各領域に関する検査の目的、内容、実施手続きを理解し、手順通りに実施できる。 ・評価の流れを復習するとともに、検査結果の分析と情報を統合し、考察できる。 ・実習で必要な身だしなみ、言葉遣い、対象者やご家族、指導者、他職種のスタッフに対する配慮等、臨床家として必要なコミュニケーションスキルを理解し、実施できる。		
授業計画	・評価実習に向けて総合的な演習を行う。 ・各領域で事例検討を行い、対象者の捉え方について演習を交えて学習する。 ・実習に必要な基礎知識や情報を統合し解釈する能力、および検査手技が備わっているかを確認するために、筆記試験と実技試験を行う。 第1～4回　　失語症 第5～8回　　高次脳機能障害 第9～13回　ディサースリア 第14～18回　摂食嚥下障害 ＊試験は第18回講義後に「筆記試験」「各種検査の実技試験」を行う。 ＊講義の順番は変更になる場合がある。		
教科書	なし（随時、必要資料を配付）		
参考書	なし（適宜、講義内で紹介）		
成績評価の方法・基準	筆記試験（50%）　実技試験（50%） 失語・高次脳機能障害、ディサースリア、摂食嚥下障害の各領域で行う。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中の飲食および私語は禁止する。評価実習前の総復習となるため、各自主体的に取り組むこと。また、本講義では検査練習は実施しないため、実習前の検査練習は各自で行うこと。		
教員紹介	10年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、基礎理論や評価、障害像の捉え方について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 I（概論）	山崎　暁 西片　裕	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・神経心理学としての高次脳機能障害の大綱を学び、「脳の構造」と「こころ」の相関関係を理解する。 ・高次脳機能障害領域におけるリハビリテーションを理解する。 ・半側空間無視の症状、病巣、メカニズム、リハビリテーションを理解する。 ・失語症の歴史を知る。言語機能の局在と言語処理過程を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・大脳の機能局在と側性化している高次脳機能について説明できる。 ・高次脳機能障害に対するリハビリテーションについて説明できる。 ・半側空間無視の症状、病巣、メカニズム、リハビリテーションを説明できる。 ・失語症の歴史がわかる。言語機能の局在と言語処理過程を説明できる。		
授業計画	第1回：高次脳機能障害の基本概念、高次脳機能障害の背景症状 第2回：高次脳機能障害のリハビリテーション、「脳の構造」と「こころ」の相関関係 第3回：ニューロンの構造と脳の構造（神経細胞と神経線維の分布）、ブロードマンの脳地図とペンフィールドの機能地図、大脳の栄養血管 第4回：前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の主な機能 第5回：失語症の歴史、大脳における言語機能の局在 第6回：言語処理過程 第7回：半側空間無視の症状と病巣 第8回：半側空間無視のメカニズムとリハビリテーション 第9回：筆記試験と解説		
教科書	藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第3版，医学書院，2015年，価格4,800円＋税		
参考書	山鳥重，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（1）基礎知識のエッセンス，医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,600円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	高次脳機能障害を理解することは言語聴覚士にとって重要な要素の一つです。復習をおろそかにせず、わからないことはできるだけその日のうちに解決しましょう。講義中の質問も歓迎します。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し神経心理学としての高次脳機能障害の大綱と、「脳の構造」と「こころ」の関係について講義をします。また、失語症研究の歴史や、大脳における言語機能の局在、言語が大脳でどのように情報処理されているのかについて講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学Ⅱ （失語・高次脳機能障害）	西片　裕 山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・失語症の症状とその機序について理解する。 ・多彩な高次脳機能障害の症状とその機序について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症状と機序を理解し、説明できる。 ・代表的な高次脳機能障害の症状と機序を理解し、説明できる。 ・脳梁離断によって出現する症状と機序を理解し、説明できる。		
授業計画	第1～7回：失語症状 第8回：構文理解・構文産生障害 第9回：失語分野　筆記試験と解説 第10回：視覚性失認 第11回：視空間認知障害 第12回：聴覚失認と触覚失認、身体失認・病態認知の障害 第13回：行為・動作の障害 第14回：脳梁離断症候群 第15回：記憶の障害 第16回：前頭葉損症に関連する高次脳機能障害 第17回：認知症に関連する高次脳機能障害 第18回：高次脳機能障害分野　筆記試験と解説		
教科書	藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学 失語症学，第3版　医学書院，2020年，5000円＋税 藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第3版，医学書院， 2020年，価格4,800円＋税		
参考書	紺野加奈江：失語症言語治療の基礎，診断と治療社，2001年，3500円＋税 山鳥重，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（1）基礎知識のエッセンス， 医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,600円＋税 三村將，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（2）画像の見方・使い方， 医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（失語分野50%・高次脳機能障害分野50%） ＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	適宜プリントを配布し、それに基づいて講義します。プリントは大量になるため、失語分野・高次脳機能障害分野を各々専用にファイリングするようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、失語症の症状とその機序、および多彩な高次脳機能障害の症状とその機序について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 Ⅲ（評価）	西片　裕 山﨑　暁	4単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	・インテーク面接からスクリーニング検査の内容と方法を理解する。 ・失語タイプや重症度などについて学び、その判定方法を理解する。 ・各種失語症検査の目的と実施方法、結果の解釈方法を理解する。 ・多様な高次脳機能障害の病態をとらえ有益なリハビリテーションができるようになるために、各種検査の実施方法・解釈方法を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・インテーク面接表とスクリーニング検査を作成し、使用できる。 ・タイプと重症度の判定ができる。各種失語症検査の実施方法を理解し、実施できる。反応を正しく記録し、その結果から言語評価と考察ができる。 ・多様な高次脳機能障害の検査の種類と鑑別点が理解できる。 ・各種検査の実施および検査結果をまとめることができる。 ・複数の検査結果を解釈し、病態を考察できる。		
授業計画	失語・高次脳機能障害の評価と検査方法を解説します。検査が実施できるようになるために、復習や自己練習が不可欠です。結果の解釈と考察のやり方を説明します。解釈と考察ができるようになるために、症例検討を行います。 第1回：言語評価の内容 第2～4回：失語タイプ・純粋例・読み書き障害・その他の失語の判定方法 第5回：情報収集、インテーク面接、スクリーニング検査 第6回：ICF、目標、検査実技テストのルーブリック作成 第7～13回：SLTAの実施方法、解釈と考察、失語症例呈示 第14～18回：重度失語症検査、CADL、WAB失語症検査、掘り下げ検査 第19回：高次脳機能障害領域の評価の捉え方 第20～21回：リバーミード行動記憶検査、ウエクスラー記憶検査 第22～25回：記憶障害の症例提示　検査結果の解釈とICFに基づくまとめ 第26～28回：標準高次動作性検査、標準高次視知覚検査　解釈とまとめ 第29～30回：BIT行動性無視検査、BITの結果解釈とまとめ 第27～31回：CAT・CAS、症例提示　検査結果の解釈とICFに基づく評価 第32～33回：遂行機能障害の行動検査 第34～35回：臨床認知症評価法：CDR（Clinical Dementia Rating） 第36回：筆記試験と解説　高次脳機能障害分野		
教科書	都築澄夫監修・大塚裕一著：明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－初回面接・スクリーニングを中心に－，医学と看護社，2016年，3900円＋税		
参考書	小嶋知幸編著：失語症の評価と治療，金原出版，2010年，4800円＋税		
成績評価の方法・基準	失語分野：レポート（50%） 高次脳機能障害分野：筆記試験（50%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	検査を実施できるまで自己練習することが必須です。細かい点でも遠慮せずに質問してください。覚える検査が多いので、計画的に取り組んでください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、インテーク面接や各種検査の実施方法・解釈方法を講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅰ(概論)	鈴木圭子	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	発達障害についての全体像を理解し、各障害タイプの診断基準・特性・言語障害を知ることで、今後の各論に生かすことができるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	①言語発達障害の要因と障害タイプについて理解することができる 定型言語発達について説明することができる ②DSMとICDについて理解することができる ③各障害の診断基準・障害特性・言語障害について説明することができる ④言語発達障害の臨床場面をみて、児とご家族への適切な支援について考える		
授業計画	第1回　発達障害についての基礎知識(目標①) DSMとICD(目標②) 第2回　知的能力障害(目標③) 第3回　コミュニケーション障害(目標③) 第4回　自閉症スペクトラム障害(ASD)(目標③) 第5回　注意欠陥・多動性障害(ADHD)(目標③) 第6回　限局性学習障害(目標③) 第7回　脳性麻痺・重複障害・運動障害(目標③) 第8回　言語発達障害の臨床(目標④) 第9回　まとめ		
教科書	・石田、石坂『言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版』医歯薬出版(5,500円)		
参考書	・藤田『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版』		
成績評価の方法・基準	定期試験100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中に質問することもありますので、自分の意見を述べてください。		
教員紹介	日本福祉教育専門学校専任教員		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅱ （自閉症スペクトラム障害）	重森　知奈	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	自閉症スペクトラム障害の幼児・学齢児に対し、言語コミュニケーション支援を行うための評価と、特性に合った支援法や環境的配慮について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・自閉症スペクトラム障害の診断基準を記述できる。 ・自閉症スペクトラム障害の行動特徴を理解し、言語コミュニケーション場面での困難さを考察できる。 ・自閉症スペクトラム障害のある子どもに対し、言語コミュニケーションや環境を考慮した支援法を立案できる。		
授業計画	第1回　自閉症スペクトラム障害の概念と定義 第2回　自閉症スペクトラム障害の歴史的変遷 第3回　自閉症スペクトラム障害の行動的特徴と診断 第4回　自閉症スペクトラム障害の行動的特徴と診断 第5回　自閉症スペクトラム障害の評価・検査 第6回　自閉症スペクトラム障害の評価・検査 第7回　自閉症スペクトラム障害児への指導・訓練 第8回　自閉症スペクトラム障害児への指導・訓練 第9回　定期試験		
教科書	・藤田郁代（監）．玉井ふみ，深浦順一（編）：標準言語聴覚障害学　言語発達障害学第2版．医学書院．2015. ・配布資料		
参考書	・石田宏代，石坂郁代（編）：言語聴覚士のための言語発達障害学　第2版．医歯薬出版．2016. ・ローナ・ウィング：自閉症スペクトル　親と専門家のガイドブック　東京書籍．1998.		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	積極的に授業に参加をすること		
教員紹介	帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科　重森知奈		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅲ （知的発達障害）	水戸陽子	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	知的障害を理解した上で、その子どもの知能、言語、コミュニケーションの症状と評価に基づき、適した支援プログラムを考えられるようになる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	1. 知的障害を理解する。 2. 知的障害児の知能、言語、コミュニケーションの評価ができる。 3. 知的障害児の支援の考え方を理解する。		
授業計画	第1回　知的障害総論 （医学的背景と診断基準・遺伝性疾患とその他の症候群など） 第2回　知的障害における言語・コミュニケーションの特徴 第3回　知的障害児の評価① （発達検査・知能検査・言語発達の検査・対人面の評価） 第4回　知的障害児の評価②（総合評価） 第5回　知的障害児の指導・支援①（発達段階に即した支援） 第6回　知的障害児の指導・支援②（認知能力・特性を考慮した支援） 第7回　症例を通して学ぶ知的障害児の支援① 第8回　症例を通して学ぶ知的障害児の支援② 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	・配布資料 ・玉井ふみ, 深浦順一編　言語発達障害学(第3版)医学書院　5,000円+税		
参考書	・石田宏代, 石坂郁代編 言語聴覚士のための言語発達障害学(第2版) 医歯薬出版株式会社 4, 400円+税 ・大石敬子,田中裕美子編 言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害 医歯薬出版株式会社 4, 500円+税		
成績評価の方法・基準	講義や集団討論への参加態度、記述式テストなどで総合的に評価（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	講義は、講義形式のほか集団討論を含む 個人のパソコンの使用可 タブレット・電子機器系による講義・スライド資料の撮影不可		
教員紹介	言語聴覚士として、成人対象の病院と地域の療育センターで実務経験を積みました。現在は、大学病院で小児臨床に携わりつつ、ST 養成校の教員をしています。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅳ （限局性学習障害）	中塚　誠	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・読み書きが苦手な児に対し適切な環境調整や言語・コミュニケーション支援を行うために、限局性学習障害の診断基準や認知特性、特性に合った支援の仕方を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・行動観察や検査結果から認知特性と読み書きに関する問題点との関連や、二次障害/併存症の合併について考察できる。 ・さまざまな支援方法を理解し、読み書き障害の改善に向けて対象者の特性に合った支援法を選択できる。		
授業計画	第1回　限局性学習障害の定義・診断基準、発達性ディスレクシア 第2回　原因・発生機序の仮説 第3回　臨床症状 第4回　検査・評価 第5・6回　治療的介入 第7回　併存症・二次障害 第8回　算数障害 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム：『特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン』診断と治療社、3,800円＋税 ・小池敏英／雲井未歓／窪島務（編著）：『LD児のためのひらがな・漢字支援　個別支援に生かす書字教材』あいり出版、3,200円＋税		
成績評価の方法・基準	・定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・資料に記載していない内容についても話をします。 ・講義中の問いかけやグループディスカッションでは、自分の考えや意見を持つように努めてください。		
教員紹介	言語・コミュニケーション訓練や、特別支援学級・特別支援学校での教育支援、言語相談等を行ってきた言語聴覚士が、学生に対し、読み書き障害の改善に向けて対象者の特性に合った支援法を選択できるようになるために、読み書き能力の発達過程や具体的な支援法などについての講義を行います。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅴ （脳性麻痺・小児嚥下）	坂口しおり・谷本式慶	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	学生は、言語聴覚士の支援領域である脳性まひ、小児嚥下について基本的な知識及び基礎的な技術への理解を促すことが必要です。 脳性まひや小児言語を理解し、適切な支援を行うためにこの講義では、ＳＴの基本的な脳性まひ児の支援場面や支援の基礎となる健常児発達の理解、障害特性の理解、実際の言語的な支援、小児への摂食について、映像を用いて説明します。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・脳性麻痺や嚥下に関する基礎的な知識を身に着ける。 ・脳性麻痺児の行動の読み取り、推察能力を高める。		
授業計画	第1回　脳性まひの定義と病態 第2回　運動障害児の言語指導 第3回　健常児の言語発達 第4回　重度運動障害児の言語臨床 第5回　インリアル・アプローチ 第6回　運動障害児の言語臨床 第7回　AAC（拡大・代替コミュニケーション） 第8回　小児嚥下の考え方と食形態、口腔機能、嚥下臨床 第9回　定期試験（振り返り） ※講義内容や順番が変更となることがあります。		
教科書	・坂口しおり：『絵で見ることばと思考の発達』ジアース教育新社、価格：1,200円＋税（予定） ・坂口しおり：『コミュニケーション支援の世界』ジアース教育新社、価格：1,619円＋税　（予定）		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）参考書等の持ち込み不可。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業を阻害する行為をした場合、単位は付与しない。		
教員紹介	特別支援学校に勤務する教員が授業展開し、脳性麻痺患者や小児嚥下患者の実際を伝えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学VI （検査・評価）	馬目　雪枝	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	対象児の現在の状態を客観的、具体的に把握するために、各検査の特性を認識し検査の手続きと結果の解釈の仕方について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	検査用具を適切に使用し、滞りなく検査を遂行できる。 検査結果を、先に収集した主訴や発達歴などの情報とあわせて、対象児の全体像を記述することができる。		
授業計画	第1回　評価（検査）の目的と方法 第2回　種々の発達検査 第3回　発達検査演習 第4回　種々の知能検査 第5回　知能検査演習① 第6回　知能検査演習② 第7回　種々の言語検査 第8回　言語検査演習① 第9回　言語検査演習② 第10回　言語検査演習③ 第11回　そのほかの検査 第12回　ケーススタディ①初回問診 第13回　〃　初回評価 第14回　〃　全体像・問題点の抽出・目標設定 第15回　ケーススタディ②初回問診 第16回　〃　初回評価 第17回　〃　全体像・問題点の抽出・目標設定 第18回　訓練立案 第19回　まとめ		
教科書	医師薬出版株式会社「言語聴覚士のための言語発達障害学」第2版		
参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法・基準	提出物30%　筆記試験70%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	グループワークも取り入れます。		
教員紹介	日本福祉教育専門学校　言語聴覚療法学科　教員		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅰ（概論）	中塚誠・木村欣司 鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・発声発語障害と摂食嚥下障害の概要が理解できる。 ・それぞれの障害の原因や発生メカニズム、症状の違いが理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・話しことばと摂食嚥下の発達機序が説明できる。 ・各障害（機能性構音障害・器質性構音障害・ディサースリア・音声障害・流暢性障害・摂食嚥下障害）の基本的概念（定義・原因・発生メカニズム等）と症状が説明できる。 ・それぞれの障害の違いが説明できる。		
授業計画	概論は各論の土台になります。各障害の基本的概念（定義・原因・発生メカニズム等）と症状の概要をについて理解を深めてください。 第1回：話しことばの発達機序（担当：中塚） 第2回：機能性構音障害（担当：中塚） 第3回：器質性構音障害（担当：中塚） 第4回：流暢性障害（吃音を含む）（担当：中塚） 第5回：ディサースリア（担当：鈴木） 第6回：音声障害（担当：鈴木） 第7回：摂食嚥下障害（担当：木村） 第8回：摂食嚥下障害（担当：木村） 第9回：定期試験（振り返り） ※講義の開講が変更となる場合があります。予めご了承ください。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	1）藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学シリーズ「言語聴覚障害学概論」第2版，医学書院，2010年，価格5,000円＋税 2）藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学シリーズ「発声発語障害学」第2版，医学書院，2015年，価格5,000円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	発声発語・嚥下障害領域では、多くの障害について学習します。能動的に授業に臨み、わからないことは遠慮せずに質問するよう心掛けてください。		
教員紹介	中塚誠： 木村欣司：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科 鈴木真生：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅱ （小児系発話障害）	鈴木圭子	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	小児構音障害の評価・訓練を実施することができるようになるために、構音障害の定義と分類を理解し、検査結果のまとめと訓練の立案について学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	①発声発語のメカニズムについて理解する 構音障害の定義について説明できる 国際音声記号を用いて、構音を表記できる ②言語・音韻・構音の正常発達について理解する ③機能性構音障害の定義を説明し、誤り方を分類することができる ④機能性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる ⑤器質性構音障害の定義を説明し、原因疾患を理解することができる 器質性構音障害の音の誤り方を説明することができる ⑥器質性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる ⑦機能性構音障害の鑑別診断、予後の推定、訓練適応について説明することができる 器質性構音障害の発達時期にあった治療・訓練法について説明することができる ⑧構音障害の言語聴覚療法の流れ(初回評価→鑑別診断→予後の推定→目標設定→訓練→再評価)を説明することができる ⑨構音障害の訓練を立案し、実施することができる ⑩構音障害の臨床について理解することができる ご家族支援について理解することができる		
授業計画	第1回	構音障害の基礎(目標①)	
	第2回	正常な構音・音韻発達(目標②)	
	第3・4回	機能性構音障害の定義と音の誤り方の分類(目標③)	
	第5・6回	機能性構音障害の評価(目標④)	
	第7・8回	器質性構音障害の定義と原因疾患・誤り方の分類(目標⑤)	
	第9・10回	器質性構音障害の評価(目標⑥)	
	第11・12回	構音障害の治療・訓練(目標⑦)	
	第13・14回	構音障害の訓練立案(目標⑧)	
	第15・16回	構音障害の訓練演習(目標⑨)	
	第17回	構音障害の臨床(目標⑩)	
	第18回	まとめ	
教科書	・熊倉、今井『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版』医学書院（5,500円） ・阿部：『構音障害の臨床 改定第2版』金原出版(2,800円)		
参考書	・本間：『言語聴覚療法シリーズ 改訂 機能性構音障害』建帛社(2,500円) ・岡崎：『口蓋裂の言語臨床 第3版』医学書院(5,000円) ・道：『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版』医歯薬出版(4,200円)		
成績評価の方法・基準	定期試験90%　レポート10%(レポート課題については講義中に説明する)		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習の授業では、フェイスシールドを準備して下さい。		
教員紹介	日本福祉教育専門学校専任教員		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅲ （成人系発話障害）	鈴木真生	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・後天性コミュニケーション障害において発言率が高いディサースリアについて、定義・原因・タイプ・症状・評価を学び、その臨床像を理解する。 ・標準ディサースリア検査の目的・検査項目の捉え方・検査結果の分析方法を理解する。 ・症例の発話特徴から、その特徴を捉え、障害像を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・臨床像を捉えるうえで必要な発声発語器官の解剖生理と運動系が理解できる。 ・他のコミュニケーション障害との違いを理解し、定義が説明できる。 ・タイプ別の特徴（病態生理・発話特徴・機能障害等）を理解するとともに、原因および損傷部位との関連を説明できる。 ・標準ディサースリア検査の結果から音声言語病理学的所見をまとめ、症状の考察ができる。 ・症例の発話特徴を捉え、発声発語器官の病態生理が考察できる。		
授業計画	◆ディサースリアは、小児・成人いずれでも起こりうるが、本講義では成人領域を中心に行う。 ◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 ◆レポート課題は、「発声発語器官の病態生理を捉える」および「事例の障害像を捉えて考察する」の2課題を実施する予定。 第1～2回：オリエンテーション・発声発語器官の解剖生理（復習） 第3回：　基礎理論（定義等） 第4～7回：一般的特徴（原因・タイプ・症状等） 第8～11回：運動系の基礎理論（中枢神経系・末梢神経系・筋系等） 第12回：評価のための基礎理論 第13～17回：評価（流れ・標準ディサースリア検査・検査結果のまとめ・問題点の捉え方・訓練目標等） 第18回：定期試験（振り返り） ※レポート課題は第11回・第16回終了後に提示予定。		
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：標準ディサースリア検査［新装版］、インテルナ出版、価格5,700円＋税		
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,400円＋税 2）馬場元毅：絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版、医学書院、価格2,800円＋税 3）新美成二監訳：発話メカニズムの解剖と生理、インテルナ出版、価格2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート課題（2課題）（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中の飲食および私語は禁止する。「なぜ」という疑問をもち、主体的に臨む。質問は気軽にどうぞ。		
教員紹介	20年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの基礎理論や評価、障害像の捉え方について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅴ（摂食嚥下障害）	木村欣司	2単位・30時間
授業の概要（授業の目的）	摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、嚥下に携わる身体の動き学び、そこから異常な動きを検出する方法を習得する。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	・正常の摂食・嚥下過程について理解する。 ・摂食・嚥下の病態について理解する。 ・摂食嚥下機能評価・スクリーニング検査（活動評価）が実施できる。		
授業計画	第1回：イントロダクション　嚥下障害とは 第2回：正常な摂食嚥下の構造と機能 第3回：正常な摂食嚥下の構造と機能 第4回：正常な摂食嚥下の構造と機能 第5～6回：摂食嚥下に関する感覚・運動の神経について 第7～9回：摂食嚥下のメカニズム 第10回：摂食嚥下障害の原因（静的・動的・その他） 第11回：摂食嚥下障害で起こる問題 第12～13回：摂食嚥下器官の運動と感覚検査 第14回：摂食嚥下に関するスクリーニング検査 第15回：検査からの統合解釈 第16回：摂食嚥下障害の精密検査 第17回：摂食嚥下障害の重症度分類 第18回：定期試験（振り返り） ＊他の講義との関連で、講義内容を変更する場合があります。		
教科書	藤田郁代監修：『標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学』医学書院、価格：5,000円＋税		
参考書	講義内で随時紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「口から食べることの重要性」を理解し、患者様の口の健康や食のQOL向上に力を添えられるようしっかり勉強しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、正常な嚥下に携わる身体の動き学ぶことで、嚥下障害にみられる異常な状態を検出する方法を習得させる科目です。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅰ（概論）	岡野　由実	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	専門分野の基礎的知識を身につけるため、聴覚障害領域の概要を理解する。 聴覚障害領域における言語聴覚士業務について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	聴覚障害の特徴を説明できる。 言語聴覚士における聴覚障害児・者への支援について説明できる。		
授業計画	第1回　「オリエンテーション」 第2回　「聴覚器官の構造と機能（概要）」 第3回　「難聴とオージオグラム」 第4回　「難聴の程度と種類、聞こえの特徴」 第5回　「各種聴覚検査（内容と目的）」 第6回　「補聴器と人工内耳」 第7回　「成人の聴覚臨床」 第8回　「小児の聴覚臨床」 第9回　レポート		
教科書	プリント随時配布		
参考書	中村公枝 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第2版）』医学書院、価格：5,200円＋税 立木孝（監修）:『聴覚検査の実際 改訂4版』南山堂、価格：3,570円＋税 宇佐美真一（編）:『きこえと遺伝子 難聴の遺伝子診断とその社会貢献 改訂第2版』金原出版、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（本人および保護者の了解済）。講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。		
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅱ （成人聴覚障害）	坂本 圭	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・聴覚機能を適切に評価するための諸検査・方法について理解する。 ・成人聴覚障害者が抱える困難やその背景を理解したうえで、適切な評価・訓練方法の立案を可能にする。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各種聴覚機能検査を理解し施行することができる。 ・聴覚検査について理解し、結果から聴覚機能評価ができる。 ・成人聴覚障害者が抱える困難を理解し、評価、訓練方法を立案できる。		
授業計画	第1回　聴覚領域に関する解剖・生理学、聴覚心理学に関する基礎 第2回　聴覚障害の種類、聴覚検査種類 第3-4回　標準純音聴力検査（理論・演習） 第5-6回　語音聴力検査・その他の聴力検査（理論） 第7-8回　語音聴力検査・その他の聴力検査（演習） 第9-10回　実技試験 第11回　平衡機能検査 第12回　聴覚障害の影響とライフステージ・心理的側面 第13-14回　聴覚障害評価のまとめ 第15回　リハビリテーションⅠ 第16回　リハビリテーションⅡ 第17回　レポート課題 第18回　定期試験		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・立木孝（編）・日本聴覚医学会（監）:『聴覚検査の実際 改訂4版』南山堂 ・中村公枝ら（編）:「聴覚障害学　第2版」医学書院		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%（持込み不可）、実技試験15%、レポート課題5%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	聴覚領域における検査・訓練を理解するためには、解剖学、生理学、音響学聴覚心理学に関する知識が必要です。他の講義内容をしっかり復習してください。		
教員紹介	大学病院の耳鼻咽喉科に言語聴覚士として、勤務している教員が、成人の聴覚障害を評価・訓練立案ができるようになるために講義・演習を行います。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅲ (小児聴覚障害)	伊集院　亮子	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	小児聴覚障害の臨床を行う上での基礎的な知識を理解し、小児聴覚障害臨床の様々な方法の特徴と利点を知る。小児対象の聴力検査について理解し、基本原理と方法を学ぶ。補聴器と人工内耳について基礎的知識を養う。小児難聴の検査と臨床に携われる基礎的な技能を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・聴覚障害についての基礎的な知識に基づいて、小児難聴について理解する。 ・小児聴覚障害の臨床について理解し、対象者について考察できる。 ・小児の聴力検査を理解し基本的な操作ができる。 ・難聴児への療育方法について分類し説明できる。		
授業計画	第1回　小児難聴の原因と分類、程度 第2回　小児聴覚障害の特徴、聴覚の発達、難聴の早期発見 第3回　小児の聴力検査法およびその他の評価法 第4回　聴覚障害児の補聴器装用と人工内耳適応 第5回　聴覚障害児のハビリテーションの歴史と概要 第6回　聴覚障害児のハビリテーションの実際 第7回　小児難聴の年齢別指導について 第8回　難聴児・者の可能性と限界、まとめ 第9回　定期試験		
教科書	プリント随時配布		
参考書	立木孝：「聴覚検査の実際　改訂4版」南山堂　3,400円＋税 中村公枝：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」医学書院　5,200円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業は毎回プリントを配布します。聴覚障害についての基礎的な知識を確認しつつ小児の臨床を行う上で必要な事を学んでいきますので、積極的に考察、意見の発表をしてもらいます。		
教員紹介	言語聴覚士として児童発達支援センター（旧難聴幼児通園施設）に於いて長年の臨床経験を積む教員が、聴覚障害の基礎知識を確認しつつ、実際の難聴児療育を解説します。実際の検査場面や療育場面の映像をお見せしますので、小児聴覚障害の療育について考え、知識を深めてください。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	臨床実習Ⅰ（評価実習）	木村欣司・西片裕 山﨑暁・鈴木真生 実習指導者	3単位・120時間
授業の概要 （授業の目的）	・評価実習指導者の指導を受けながら、対象者の全体像ならびに生活機能と障害のとらえ方を学ぶ。 ・対象者に対する言語聴覚療法評価、生活機能と障害の整理、評価の報告などの一連の言語聴覚療法を学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・担当症例の情報収集ができる。 ・対象者に必要な検査や行動観察を適切に行うことができる。 ・対象者の全体像ならびに生活機能と障害について整理することができる。 ・治療目標（主目標・副目標）を立てることができる。 ・要点を押さえた記録、根拠にもとづいた評価報告ができる。 ・観察力を身につけ、考える力を養うことができる。 ・自分の考えを言語化し、伝えることができる。		
授業計画	【期間】 ・Ⅰ期：2022年1月24日～2022月2月12日 ・Ⅱ期：2022年2月14日～2022年3月5日 ※2021年3月時点　予定 ・上記期間のうち15日間（3週間） 【その他】 実習施設、評価実習指導要領（手引き）については詳細を別途配布する。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の方法・基準	評価実習施設において、評価実習指導者のもとで指導が行われる実習形式をとる。教員は実習期間中に実習地に赴き、指導を行う。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が臨床実習前の指導、臨床実習後の振り返りを行います。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎専門分野	専門基礎分野特論Ⅰ （基礎医学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な医学概論、生理学、病理学、解剖学といった基礎医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、基礎医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と基礎医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、基礎医学領域を理解し、言語化することができる。 ・基礎医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・基礎医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、基礎医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、基礎医学領域は、臨床医学領域や臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な基礎医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：基礎医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な基礎医学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅱ (臨床医学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科学、内科学、小児科学、形成外科学、臨床神経学、精神医学、リハビリテーション医学といった臨床医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、臨床医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と臨床医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、臨床医学領域を理解し、言語化することができる。 ・臨床医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・臨床医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、臨床医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、臨床医学領域で扱う疾患は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な臨床医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：臨床医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な臨床医学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅲ （音声言語聴覚医学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な呼吸発語系、聴覚系、神経系といった音声言語聴覚医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声言語聴覚医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声言語聴覚医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声言語聴覚医学領域を理解し、言語化することができる。 ・音声言語聴覚医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声言語聴覚医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、音声言語聴覚医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、音声言語聴覚医学領域の解剖・生理・病理の知識は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音声言語聴覚医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	心理測定法	福島和郎	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	心理測定法の背景にある心理学研究や検査理論に関する理解を深め、科学的なものの見方を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理学研究の考え方や測定理論を整理しつつ、検査の種類を概観できる。 ・検査の適切な用い方、測定方法に関する理解を得ることができる。		
授業計画	第1回：心理学研究における心理測定法の意義 第2回：心理測定の歴史 第3回：心理学研究と心理測定の基礎 第4回：実験法による心理測定 第5回：質問紙法による心理測定 第6回：心理学研究と心理測定のまとめ 第7回：尺度水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度） 第8回：尺度水準に応じた測定方法（統計的仮説検定） 第9回：評定尺度法（直接法、間接法） 第10回：尺度構成法のまとめ 第11回：検査理論1（信頼性と妥当性） 第12回：検査理論2（標準化） 第13回：知能の構造、知能検査、学習能力検査、発達検査 第14回：パーソナリティ検査、神経認知検査、精神疾患の検査 第15回：閾値の測定、j.n.d.とPSE、測定の法則、信号検出理論 第16回：精神物理学的測定法（調整法、極限法、恒常法、適応法、等） 第17回：講義内容の総括 第18回：最終試験		
教科書	加藤司（著）:『〔改訂版〕心理学の研究法―実験法・測定法・統計法―』北樹出版、2,090円		
参考書	市川伸一編（著）:『心理測定法への招待』サイエンス社、2,970円		
成績評価の方法・基準	定期試験（90%）、小テストまたはレポート（10%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義形式で毎回プリントを配布し、これにポイントを記入してもらう授業を行います。毎回扱う範囲が広いので、復習を確実に行ってください。		
教員紹介	病院併設の研究機関で精神障碍の治験と検査開発に関わった経歴をもち、精神障碍者グループホームの世話人をしながら、複数の教育機関で講師をしています。心理検査の理論的背景をわかりやすく講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅳ （心理学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な認知・学習心理学、生涯発達心理学、臨床心理学、心理測定法、心理統計法といった心理学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、心理学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と心理学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、心理学領域を理解し、言語化することができる。 ・心理学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・心理学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、心理学領域の知識が欠かせない。なぜなら、心理学領域の知識は、言語聴覚士が対象者と向き合ううえで必要であり、心理統計法もまた科学的なリハビリテーションを行ううえで必要不可欠なためである。よって、言語聴覚士として必要な心理学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：心理学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験と研究実績のある教員が、言語聴覚士として必要な心理学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅴ (言語学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な言語学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語学を理解し、言語化することができる。 ・言語学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって言語学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な言語学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論VI (音声学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な音声学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声学を理解し、音声化することができる。 ・音声学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音声学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音声学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音声学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅶ (音響学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な音響学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音響学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音響学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音響学領域を理解し、アウトプットすることができる。 ・音響学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音響学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音響学領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音響学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音響学領域に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音響学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	社会保障制度・関係法規	山下望	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	社会保障の基本的な考え方を身につけると共に制度の中身と直近の法改正を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・社会福祉、社会保障の成り立ちや意味を学び、現代社会を分析し、必要性を考察する。 ・制度の概要を把握し、直近の制度変更を学び、身につける。		
授業計画	第1回　社会保障と社会福祉　a考え方（理念・地域福祉・利用者の利益の保護・その他）、 第2回　社会保障と社会福祉　b動向 第3回　社会保障の体系と範囲a社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生および医療（一般保険、学校保健、母子保健、精神保健、老人保健を含む） 第4回　社会保障を構成する各制度　a年金 第5回　社会保障を構成する各制度　b医療保障（医療扶助、公費負担制度を含む） 第6回　社会保障を構成する各制度　c介護保険 第7回　社会保障を構成する各制度　d労働者災害補償制度、e雇用保険、f社会手当（家族手当を含む） 第8回　社会保障を構成する各制度　g公的扶助、h社会福祉、iその他関連制度 第9回　社会福祉の法律と施策および運用　a社会福祉法、b児童福祉法、c老人福祉法 第10回　社会福祉の法律と施策および運用　d障害者基本法、e身体障害者福祉法、f知的障害者福祉法、g精神保健および精神障害者福祉に関する法律、h生活保護法およびその他関連法 第11回　障害者に関する施策と実施体制　a身体障害者手帳等手帳制度、b障害認定、c福祉用具（補装具、日常生活用具、その他）、d障害者計画 第12回　介護保障　a介護保険の給付、b制度の運用、cその他の介護サービス 第13回　社会福祉援助技術　a直接援助技術　1）個別援助技術（ケースワーク）　2）集団援助技術（グループワーク） 第14回　b間接援助技術　1）地域援助技術、2）社会福祉調査法、3）社会福祉運営・管理、4）社会活動法、5）その他の間接援助技術 第15回　cその他の関連専門援助技術　1）ケアマネジメント、2）スーパービジョン、3）カウンセリング、4）ネットワーク、5）その他 第16回　まとめ 第17回　まとめ 第18回　定期試験（振り返り）		
教科書			
参考書	特に無し		
成績評価の方法・基準	学期末試験（振り返り）(90%)、章ごとの小テスト（7%)、レポート（3%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	プリント、教科書を使った講義形式、質疑応答も含める。		
教員紹介	特別園学校教員を4年、障害者福祉サービス経験35年。福祉社会（地域共生社会）を目指しています。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅷ (社会福祉・教育学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な社会保障制度・関係法規、リハビリテーション概論といった社会福祉・教育領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、社会福祉・教育領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と社会福祉・教育領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、社会福祉・教育領域を理解し、言語化することができる。 ・社会福祉・教育領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・社会福祉・教育領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士として働くうえで、社会福祉・教育領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：社会福祉・教育領域に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅰ （言語聴覚障害学総論）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害診断学といった言語聴覚障害学総論領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語聴覚障害学総論領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語聴覚障害学総論領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語聴覚障害学総論領域を理解し、言語化することができる。 ・言語聴覚障害学総論領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語聴覚障害学総論領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語聴覚障害学総論領域に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学Ⅳ（訓練）	西片　裕 山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要（授業の目的）	失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対して適切なアプローチ・リハビリテーションを実施できるようになるために、各種訓練方法を理解し、実施する。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	・失語症に対する各種訓練方法の目的と方法を理解し、実施できる。 ・高次脳機能障害の中で比較的頻度の高い、半側空間無視、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、観念失行、観念運動失行、視覚失認に対するアプローチを説明できる。 ・対象者の病態に適した訓練目標および訓練方法を、ICFの機能・活動・参加・環境因子・個人因子などを考慮して立案できる。		
授業計画	・失語症の各モダリティー、各レベルに対応した訓練方法を説明します。訓練で留意すべき点についても説明します。訓練の目的と実施方法を十分理解してください。症例に最も適切な訓練方法と難易度を選択し、実施するために必要な知識です。 ・高次脳機能障害は複数同時に生じることが多く、それらは互いに影響します。このため訓練目標を定めるには、障害の程度や種類、生活背景などを深く理解する必要があります。訓練目標が同じでも対象者の障害特性や個性によって訓練方法は異なります。本講義では、純粋例に対する代表的な訓練法を提示しますので、基本的な訓練目標の設定や訓練方法をしっかりと学んでください。 第1回：言語治療の留意点、失語症の予後、経過に合わせたアプローチ 第2回：刺激法、ディブロッキング法、認知心理学的アプローチ 第3～7回：モダリティーとレベルに応じた言語訓練 第8～9回：活動レベルの言語訓練、失語症者に対するAACアプローチ 第10～11回：訓練を行う上での留意点、半側空間無視に対するアプローチ 第12～13回：注意障害・遂行機能障害に対するアプローチ 第14～15回：記憶障害に対するアプローチ 第16～17回：観念運動失行・観念失行に対するアプローチ 第18回：視覚失認に対するアプローチ		
教科書	プリント随時配布		
参考書	小嶋知幸編著：失語症の評価と治療，金原出版，2010年，4800円＋税 森田秋子ほか：動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ，三輪書店，2017年，4800円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義の途中で適宜グループワークを行います。積極的に意見交換してください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対する各種訓練方法を講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 V（ケーススタディー）	西片　裕 山﨑　暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・失語症治療を実施できるようになるために、訓練プログラムを立案し、模擬的な訓練を実施する。 ・認知症の多様な症状に対しアプローチできるようになるために、認知症に行われているアプローチを理解し、具体的な方法を身につける。 ・アプローチの意義や目的を認知症者や家族にわかりやすく説明できるようになるために、プレゼンテーション技術を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症例に対する適切な訓練を立案し、実施できる。 ・失語症例の反応に適切に対応し、柔軟に内容を修正しながら訓練できる。 ・多様な高次脳機能障害や周辺症状のある認知症に対するアプローチを理解し、病態に合わせた訓練目標を設定し具体的な訓練方法を立案できる。 ・認知症訓練の意義と目的、方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ・立案した訓練プログラムを実施できる。		
授業計画	失語症模擬訓練の実施 ・自分たちで設定した症例に対し、グループ内で検討しながら適切な訓練を立案します。立案した訓練をスムーズに実践できるまで練習します。 ・他のグループから指名された学生に症例を演じてもらい、訓練を実演します。その後、実演した訓練についての感想やコメント、質問などの討論を行い、学生全体で理解を深めます。 認知症に対する訓練目標および訓練法のプレゼンテーション ・認知症に対し、言語聴覚士が行う訓練や援助方法理解し、わかりやすくプレゼンテーションする技術をグループ内で検討しながら学びます。 ・認知症の重症度および周辺症状の設定は各グループに一任します。 ・自分たちが設定した訓練目標と訓練内容をグループごとにプレゼンテーションします。その後、質疑応答や討論を行い、学生全体で理解を深めます。 第1回：失語症例に対する模擬訓練のグループ分け、症例の設定 第2回：認知症例に対する模擬訓練のグループ分け、対象の設定 第3～10回：訓練プログラムの立案と練習（失語例、認知症例） 第11～14回：グループごとの認知症に対する訓練のプレゼンテーション 第15～18回：グループごとによる失語症訓練の実演		
教科書	なし		
参考書	大塚裕一・宮本恵美：高次脳機能障害のグループゲーム集，金原出版，2003年，3600円+税		
成績評価の方法・基準	・失語症例：立案した訓練内容と、訓練実施の様子を評価します。 ・認知症例：設定した症例に見合った訓練目標・訓練内容であるかどうか、プレゼンテーション内容、質疑応答や討論時の対応を評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	訓練プログラムの立案や作製、プレゼンテーションの練習は、時間を要することが想定されます。時間を有効に使い効率的に学習しましょう。		
教員紹介	学生が立案し、実施した訓練に対して、言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、丁寧にアドバイスをします。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅱ (失語症学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な失語症学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、失語症学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と失語症学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、失語症学を理解し、言語化することができる。 ・失語症学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・失語症学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な失語症学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：失語症学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な失語症学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅲ (高次脳機能障害学)	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・言語聴覚士に必要な高次脳機能障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、高次脳機能障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と高次脳機能障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、高次脳機能障害学を理解し、言語化することができる。 ・高次脳機能障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・高次脳機能障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な高次脳機能障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：高次脳機能障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な高次脳機能障害学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅷ （ケーススタディ）	馬目雪枝	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚臨床の一連の流れを、小児の言語発達の視点から遂行すること。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	対象者の状態や特性に合った言語訓練を実施するために、適切な問診、評価、言語病理学的診断、目標設定、訓練立案ができる。 対象者に関する情報を報告書としてまとめることができる。		
授業計画	第1回　支援の枠組み・支援方法　教科書p120～ 第2回　発達段階に即した支援　教科書p134～ ケーススタディ①：グループワーク 第3回・4回　動画より情報収集 第5回・6回　評価のまとめ・問題点の抽出 第7回・8回　訓練立案 第9回・10回　発表 ケーススタディ②：グループワーク 第11回・12回　動画より情報収集 第13回・14回　評価のまとめ・問題点の抽出 第15回・16回　訓練立案 第17回・18回　発表 第19回　まとめ		
教科書	医師薬出版株式会社「言語聴覚士のための言語発達障害学」第2版		
参考書	建帛社「言語聴覚士のための臨床実習テキスト　小児編」		
成績評価の方法・基準	提出物、グループワーク発表、レポート（詳細は講義内で）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	感染予防を行いながら、グループワークを実施します。		
教員紹介	日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科　専任教員		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅳ （言語発達障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語発達障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語発達障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語発達障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語発達障害学を理解し、言語化することができる。 ・言語発達障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語発達障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語発達障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語発達障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語発達障害学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅳ （成人系発話障害）	鈴木真生・山﨑暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・ディサースリアにおける評価・診断、治療プログラムの立案に関する捉え方を理解する。 ・ディサースリアにおける治療概要・治療アプローチを理解し、演習を通して治療手技を学ぶ。 ・各種コミュニケーション機器について学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・臨床における評価・診断の目的を理解し、治療仮説と検証の意義が理解できる。 ・治療を行ううえで必要な考え方、流れが理解できる。 ・タイプ別および器官別治療アプローチについて、目的・手技が理解できる。 ・各種コミュニケーション機器の概要を理解できる。		
授業計画	◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 ◆障害像を捉え、評価・診断、目標、治療プログラムを考察するためにレポート課題を行う。 第1回：オリエンテーション（評価の振り返り） 第2回：評価・診断、治療仮説とその検証について 第3～4回：口腔構音器官の器質障害をきたす疾患、器質障害の評価と補綴物の種類・訓練 第5回：治療概論（対象者との関わり方） 第6～7回：治療概論（流れ・モデル等） 第8回：治療アプローチ（タイプ別） 第9～10回：治療アプローチ（器官別：呼吸機能） 第11～12回：治療アプローチ（器官別：発声機能・鼻咽腔閉鎖機能） 第13～15回：治療アプローチ（器官別：口腔構音機能） 第16回：治療アプローチ（器官別：プロソディー機能等） 第17回：治療アプローチ（器官別：AACアプローチ） 第18回：治療アプローチ（その他の治療アプローチ）		
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,000円＋税 2）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編、インテルナ出版、価格4,400円＋税		
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：スピーチリハビリテーション第1巻～第5巻、インテルナ出版 ※各巻本体価格が異なります。詳細は講義内で説明します。		
成績評価の方法・基準	レポート課題（80%）、小テスト（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中の飲食および私語は禁止する。「なぜ」という疑問をもち、主体的に臨む。質問は気軽にどうぞ。		
教員紹介	20年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの基礎理論や評価、障害像の捉え方について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅵ（摂食嚥下障害）	加藤太一・木村欣司	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各訓練法の意義や効果を理解できる。 ・各訓練法の実施ができる。 ・障害に対し、適切な摂食嚥下療法が提供できる。		
授業計画	第1回：摂食嚥下障害者への訓練　～イントロダクション～ 第2回～第3回：リスク管理 第4回～第6回：訓練の実際（間接訓練） 第7回～第9回：訓練の実際（直接訓練） 第10回～第11回：訓練の実際（外科的治療・薬物療法・補綴治療） 第12回～第17回：症例検討 第18回：期末試験		
教科書	適宜資料配布		
参考書	柴本勇ら 監修：『動画でわかる　摂食嚥下障害患者のリスクマネージメント』中山書店、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	課題（50%）・期末試験（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	発声発語・嚥下障害学Ⅴ（嚥下障害）での知識が前提です。 しっかりと復習し臨むように心掛けて下さい。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が学生に対し、嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて理解させる科目です。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅶ （音声障害）	西片　裕	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	音声障害を評価して適切な音声治療を実施するために、音声障害の原因疾患、検査方法、音声外科の目的と種類、音声治療手技を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・音声障害の原因疾患の特徴を説明できる。 ・医師が実施する検査方法が理解できる。 ・言語聴覚士が実施する検査方法が理解できる。 ・音声外科の目的と方法が理解できる。 ・音声治療手技を理解し、代表的な手技を使用できる。		
授業計画	授業は適時配布するプリントに沿って行います。音声治療を行う医師の指示で、言語聴覚士は音声リハビリテーションを実施します。そのため、原因疾患のみならず、医師が行う検査や治療についての知識も広く学びます。言語聴覚士が分担する検査やリハビリテーション手技を一通り学び、代表的な手技について実践できるように学びます。 第1回：声の障害とは、音声障害の分類、声の発達と障害、声の乱用・誤用 第2～3回：音声障害の原因疾患 第4回：検査方法 第5回：音声外科、声の衛生、音響分析の実技 第6～7回：音声リハビリテーションの方法 第8回：人工喉頭、食道発声、シャント発声、カニューレ 第9回：筆記試験と解説		
教科書	廣瀬肇監修：STのための音声障害診療マニュアル，インテルナ出版，2009年，3500円＋税		
参考書	Alison Behrman・John Haskell編、城本修・生井友紀子訳：実践音声治療マニュアル，2012年，インテルナ出版、3800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布されたプリントには余白を多くとってあり、授業中のノートとしても書き込めるようにしています。プリントの量が多いので、ファイル等に整理するようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語領域での実務経験をもつ教員が、音声障害の原因疾患や検査方法、治療手技を講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅷ（流暢性障害）	南　めぐみ	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・吃音に関する基本的な知識を得て、吃音症状を評価し、治療方針を立てる。 ・吃音当事者が抱える問題について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・吃音についてのガイダンスができるようになる。 ・アセスメントを行い、治療計画を立てることができるようになる。		
授業計画	第1回　吃音の基礎的知識 第2回　吃音の症状分類 第3回　吃音の進展過程について 第4回　各種理論（原因論） 第5回　アセスメントについて 第6回　吃音検査実習 第7回　指導･訓練について 第8回　指導・訓練について（実習） 第9回　試験		
教科書	都築澄夫著：『言語聴覚療法シリーズ13　改訂吃音』建帛社、 本体価格：2,500円＋税		
参考書	バリー・ギター：『吃音の基礎と臨床　総合的アプローチ』学苑社、 本体価格：7,600円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業では，吃音に関するさまざまな書籍を紹介します。吃音に関心を持ち，積極的に本を読んでみて下さい。		
教員紹介	小児科クリニックのＳＴである教員が講義を行います。吃音に関する研究も行っておりましたので，気になったことは授業でどんどん質問して下さい。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学IX （ケーススタディー）	赤松栄晃・鈴木真生	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	発声発語・嚥下障害領域（ディサースリア・摂食嚥下障害）の治療を実施できるようになるために、設定した症例の問題点の把握から訓練目標、訓練プログラム立案の過程を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・評価結果から症例に対する問題点を挙げることができる。 ・問題点から適切な訓練目標を立てることができる。 ・訓練目標から具体的な訓練プログラムを選択できる。		
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2～3回：事例検討① 第4～5回：事例検討② 第6～7回：事例検討③ 第8～9回：事例検討④ 第10～11回：事例検討⑤ 第12～13回：事例検討⑥ 第14～15回：事例検討⑦ 第16～17回：事例検討⑧ 第18回：総括 ※事例検討①～事例検討⑧において、ディサースリア領域・摂食嚥下障害領域の事例検討を行います。 ※各領域の授業回数は8回を予定しています。授業予定は第1回オリエンテーションで説明します。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	ディサースリア領域：レポート課題（50%） 摂食嚥下障害領域：レポート課題（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義内で症例検討を行います。ディスカッションを含め、主体的に臨んでください。また、時間を有効に使い効率的に学習しましょう。		
教員紹介	◆摂食嚥下障害領域（赤松栄晃：所沢リハビリテーション病院勤務） 学生が立案した訓練プログラムまでに対して、言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験から、丁寧にアドバイスをします。 ◆ディサースリア領域（鈴木真生） 教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの基礎理論や評価、障害像の捉え方について講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅴ （発声発語障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な小児系発話障害、成人系発話障害、音声障害、流暢性障害といった発声発語障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、発声発語障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と発声発語障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、発声発語障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・発声発語障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・発声発語障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な発声発語障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：発声発語障害学領域に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な発声発語障害学領域の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅴ （摂食嚥下障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な摂食嚥下障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、摂食嚥下障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と摂食嚥下障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、摂食嚥下障害学を理解し、言語化することができる。 ・摂食嚥下障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・摂食嚥下障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な摂食嚥下障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：摂食嚥下障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な摂食嚥下障害学の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅳ (小児聴覚障害)	岡野　由実	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	先天性聴覚障害が生涯発達に及ぼす影響を理解し、言語聴覚士の果たす役割について考察する。 小児聴覚障害に関わる多領域に渡る情報(医学、教育、心理、補聴技術 等)について、包括的に理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	小児聴覚障害臨床における各種聴覚検査の目的、手法、留意点を説明できる。 小児聴覚障害臨床における言語・コミュニケーション評価と指導について概要が理解できる。		
授業計画	第1回　「小児聴覚障害の原因と医学的検査」 第2回　「小児の聴覚検査」 第3回　「乳幼児の聴性行動の発達と乳幼児聴力検査」 第4回　「幼児・乳幼児の聴力検査（演習）」 第5回　「小児の補聴器と人工内耳」 第6回　「言語・コミュニケーション評価」 第7回　「前言語期段階の指導」 第8回　「言語習得段階の指導」 第9回　試験		
教科書	プリント随時配布		
参考書	中村公枝 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第2版)』医学書院、価格：5,200円＋税		
成績評価の方法・基準	毎回授業後に小テストを実施します（資料持ち込み可)。 成績は最終回に実施する試験（資料持ち込み不可）にて評価します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（保護者の了解済)。講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。		
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅴ （補聴器・人工内耳）	関口　貴之	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	聴覚障害児者への補聴手段の一つとして、補聴器は不可欠といえます。 本課目では、補聴器の構造から適合理論、その手法についての理解を深め、対象に応じた補聴器の適合ができるようにする。また、人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項を理解する		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・補聴器の構造・機能についての理解を深める。 ・補聴器の特徴を理解し、対象に応じて補聴器の選択、適合ができるようにする。 ・人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項をできる。		
授業計画	第1回　　補聴器の構造・機能 第2回　　PCによるデジタル補聴器のフィッティング、試聴演習② 第3回　　補聴器の特性測定演習、補聴器適合理論と利得測定法（実耳測定含む） 第4回　　対象に応じた補聴器の適合理論とその手法、装用効果の測定 第5回　　補聴器の福祉申請、事例検討（小児・成人） 第6回～第7回　　人工内耳とは…構造・適応基準・リスク・禁忌など 第8回　　人工内耳装用のリハビリテーション・評価法など 第9回　　期末試験（振り返り）		
教科書	事前にプリント等配布		
参考書	・立木孝（編）・日本聴覚医学会（監）： 『聴覚検査の実際　改訂3版』（南山堂）、3,570円+税 ・中村公枝・城間将江・鈴木恵子（編）・藤田郁代（監）： 『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　（医学書院）、5,200円+税 ・小寺一興（著）： 『補聴器フィッティングの考え方　改訂3版』（診断と治療社）、3,200円+税		
成績評価の方法・基準	期末試験100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	補聴器を選択、フィッティングしていく過程には、純音・語音聴力検査など聴覚検査の解釈ができることが重要です。また、難聴児者におけるコミュニケーション障害についての理解も必要です。聴覚障害学（Ⅰ）概論、（Ⅱ）成人聴覚障害、（Ⅲ）小児聴覚障害等、他の講義の復習をしておいてください。		
教員紹介	パナソニック補聴器（株）首都圏営業ブロック所属　　言語聴覚士		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学VI (視覚聴覚二重障害)	森澤　亮介 筑波大学附属大塚特別支援学校	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	視覚聴覚二重障害児・者への言語療法を展開できるようになるため、病理・生理・訓練方法など基礎的な知識を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	視覚聴覚二重障害の病理・生理など基礎的知識を身につける。 事例検討やケースレポートを通して視覚聴覚二重障害について考察できる。		
授業計画	第1回　目の仕組　視覚障害とは 第2回　視覚障害者の生活 第3回　視覚障害体験 第4回　視覚障害児・者　事例検討 第5回　視覚聴覚二重障害　病理・生理 第6回　視覚聴覚二重障害教育の歴史 第7回　視覚聴覚二重障害児・者への言語訓練 視覚聴覚二重障害疑似体験 第8回　視覚聴覚二重障害児　事例検討 第9回　試験		
教科書	講義資料　配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	試験80%　講義内における小レポート20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	事例検討は、4～5人の小グループで行います。 障害疑似体験では、アイマスクを使用します。(タオル等での代用も可) 可能な範囲で事前に準備してください。		
教員紹介	公立の特別支援学校で視覚聴覚二重障害のある児童・生徒を受け持っていました。その時の実践例から具体的な関わりの基礎をお話しいたします。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅴ （聴覚障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な成人聴覚障害、小児聴覚障害、補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害といった聴覚障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、聴覚障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と聴覚障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、聴覚障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・聴覚障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・聴覚障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な聴覚障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：聴覚障害学領域に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導 第9回：筆記試験と解説		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な聴覚障害学領域の知識を教えます。		

2021年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	臨床実習Ⅱ（臨床実習）	木村欣司・西片裕 山﨑暁・鈴木真生 実習指導者	12単位・480時間
授業の概要 （授業の目的）	・臨床実習指導者の指導を受けながら、対象者の全体像ならびに生活機能と障害をとらえ、評価・治療計画の立案・具体的治療の一部経験・記録・再評価など一連の言語聴覚療法を学ぶ。 ・言語聴覚士としての基本的臨床能力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ・対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ・評価、音声言語病理学的診断ができる。 ・治療計画を立案し、治療の一部が経験できる。 ・評価に加え、経過のまとめや現状、今後の課題、方針等を含めた報告書が根拠にもとづき作成できる。 ・他職種との連携が理解できる。 ・自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。 ・自分の考えを整理して、相手に伝えることができる。		
授業計画	【実習期間】 2021年6月28日（月）～2021年11月27日（土）まで 【実習時間】 上記期間のうち合計480時間の実習を行う。 ※内訳：320時間（40日間）・160時間（20日間） 【その他】 臨床実習Ⅱ（臨床実習）は、実習施設で行う。 実習施設ならびに臨床実習の手引きについては詳細を別途配布する。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と臨床実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、臨床実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて、事前準備をしっかり行うこと。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が臨床実習前の指導、臨床実習後の振り返りを行います。		